HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学オープンエデュケーションセンター ： 2014年度 活動報告書
Issue Date	2015-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/66180
Type	report
File Information	huoec_annual_report_h26.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

ネットで学ぶ、をはじめよう。

北海道大学
オープン
エデュケーション
センター

CENTER FOR OPEN EDUCATION
HOKKAIDO UNIVERSITY

2014

2014年度　活動報告書
ANNUAL REPORT

報告書の発行に当たって

オープンエデュケーションセンター（OE センター）が、平成 26 年 4 月に発足したのをご存知でしたか？OE センターは、情報通信技術(ICT)を活用した教育及び学習支援を行うとともに、オープン化した教育資源(OER)に関する研究開発を行うことを目的として、高等教育推進機構に設置されました。OE センターの前身はオープンコースウエア(OCW)です。OCW では、北海道大学の知的資源を広く一般に提供することを目的としてきました。OE センターはこの活動に加えて、学内の教育改善に資する教材の開発支援と新たな教育手法の導入推進取り組んでいます。

平成 26 年度は、講義での活用を前提とするコンテンツを中心に収録を進めるとともに、履修管理が可能なコンテンツ配信サーバーの構築を軸に活動してきました。また、ホームページの開設準備にも取り組んできました。この報告書がお手元に届くころには、OE センターのホームページから様々な情報を発信する予定です。

OE センターは、平成 27 年度から稼動する新たな教育情報システムを用いた教育学習支援機能の整備充実及び利用促進に関する業務も担当します。さらに、高等教育研究部科学技術コミュニケーション教育研究部門（CoSTEP）を統合することによって、科学技術コミュニケーション教育プログラムの実施及び教育活動を通じた本学の広報・コミュニケーション活動への参画を行います。

本報告書をご一読いただき、ご自身の講義に用いる教材を魅力あるものに刷新したい、また、e ラーニングに関心があるなどありましたら、是非とも OE センターへお問い合わせください。専任スタッフが、皆様の教材制作を多面的に支援いたします。

平成 27 年 3 月 16 日

オープンエデュケーションセンター

センター長　　小林 幸徳

目次

1. 概要
   1.1　背景
   1.2　ミッション・計画
2. 実施体制
   2.1　組織
   2.2　運営体制
3. 機能
   3.1　サービス一覧・問い合わせ先
   3.2　収録・配信受付フロー
   3.3　制作フロー
   3.4　著作権処理
   3.5　配信プラットフォーム
4. 活動状況
   4.1　活動記録
   4.2　コンテンツ収録・受領状況
   4.3　コンテンツ公開状況
   4.4　公開コンテンツ概要
   4.5　主な活動
5. 北海道地区国立大学連携教育機構からの委託事業
6. 広報活動
   6.1　ブランディング
   6.2　ロゴ
   6.3　Web サイト
7. 利用状況
   7.1　アクセス統計
   7.2　コンテンツの二次利用
8. まとめ
   8.1　次年度の展開
   8.2　まとめ
資料

1. 概要

1.1 背景

近年、インターネット上で教材や教育環境をオープンにする活動「オープンエデュケーション」が盛んになりつつある。きっかけは 2001 年に米国マサチューセッツ工科大学が始めた「オープンコースウェア（OCW）」であり、大学の講義で使われている教育資料を無償で一般公開するものであった。その後、OpenStudy などオープン教材で教え学び合う学習コミュニティが登場するなど、教育コンテンツを効果的に活用し、学びを豊かにしようとする動きが出てきている。さらに 2012 年ころからは Udacity、Coursera、edX など大規模公開オンライン講座：MOOC(Massive Open Online Course)が注目を集めている。オープンな教材やプラットフォームを用いて、遠隔教育や e ラーニングのように、インターネット上で講師が教育を行うもので、

- 大学で行われているものと同じ内容の講義をオンラインで受講できる
- 履修期間中の課題提出や終了時の試験がある
- 双方向の学習システムのため、講師と受講生がやり取りできる
- 受講生同士が掲示板を通じて協調学習することができる
- 学習者の学習履歴が蓄積されるので、分析し、更なる教育改善につなげることができる

といった特徴がある。世界的潮流としては、より学習効果の高い活動に向かっている。

本学においては、これまで教務情報システムによる教育基本データの管理、教育情報システムを活用した教育･学習支援、CALL や科学技術コミュニケーター養成プログラム(CoSTEP)、工学系教育研究センター(CEED)による e ラーニングの実施、OCW 事業や付属図書館 HUSCAP 事業の展開など、広くオープンエデュケーションに関わる取り組みを推進してきた。

しかしながら、担当部局間の連携･協力が図られていない、ICT を利活用した大学教育を改善する手法と履修データ分析体制が未確立、教育の質向上に寄与するオープン教材の開発体制が未確立等の問題点と課題が指摘されていた。そこで、全学的な統制の下、これまでの OCW や e ラーニングの資産を引き継ぎつつも、OER（Open Educational Resource）を体系的に整備し、学生の主体的な学習の促進と授業改善に有機的に結びつけるとともに、教育コンンテンツを学外に発信すべくオープンエデュケーションセンターが設立された。

1.2 ミッション・計画

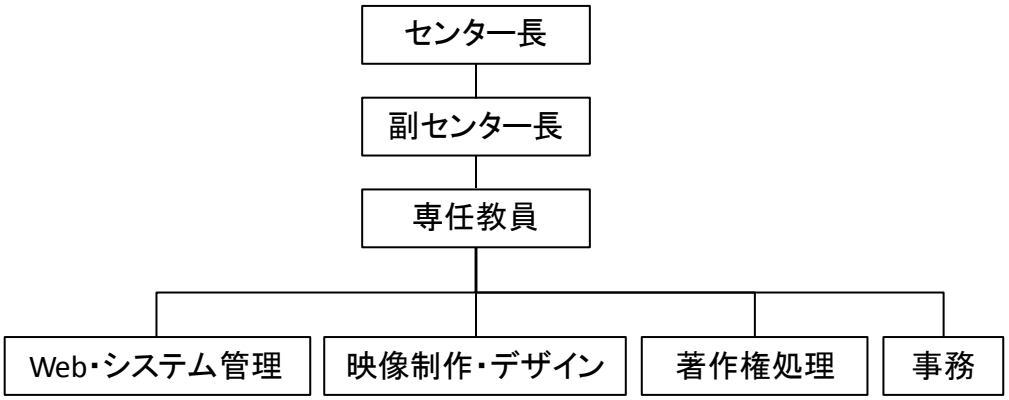
オープンエデュケーションのミッションは、「OER を活用した先進的教育の推進による大学教育の質向上」であり、以下の事項を推進する。

- 授業の効果を高める学習履歴と達成度の確認ができる OER の開発支援
- 主体的な学びを促す「ICT 活用型先進的学習環境」の整備
- 先進的な教育方法「反転授業」を導入したアクティブラーニングの実施支援

2. 実施体制

2.1 組織

2014 年 4 月より、高等教育推進機構教育支援部にオープンエデュケーションセンターが設置された。全学的に OER（Open Educational Resource）を活用した教育・学習支援とその研究開発を推進すべく、センター長、副センター長および専任教員が本事業の企画・推進を行っている。また、専任教員 1 名が OER を活用した教育・学習支援とその方法開発の統括を行い、特定専門職員 3 名および事務／技術補助員 3 名が OER 開発における著作権処理、OER コンテンツ開発、OER を掲載する Web サイト開発およびセンターにおける事業の実施に関わる事務業務等の実務を行っている。



オープンエデュケーションセンター組織概略

2014 年度におけるオープンエデュケーションセンター構成員は以下の通りである。

所属・職名	氏名	主な役割等
工学研究院 教授	小林 幸徳	センター長 （H26.4.1～）
情報基盤センター 准教授	重田 勝介	副センター長 （H26.4.1～）
オープンエデュケーションセンター 准教授	藤田 良治	実務部統括 （H27.2.1～）
オープンエデュケーションセンター 特定専門職員	佐多 正至	著作権処理 （H26.4.1～）
オープンエデュケーションセンター 特定専門職員	松本 哲也	Web・システム管理 （H26.6.1～）
オープンエデュケーションセンター 特定専門職員	田中 宏明	映像制作・デザイン （H26.11.1～）
オープンエデュケーションセンター 事務補助員	藤岡 希美	事務 （H26.6.1～）
オープンエデュケーションセンター 事務補助員	斎藤 亜希	著作権処理 （H26.7.1～）
オープンエデュケーションセンター 技術補助員	南 俊輔	映像制作 （H26.11.1～）
オープンエデュケーションセンター 事務補助員	米永 明恵	著作権処理 （H26.4.1～4.30）
オープンエデュケーションセンター 事務補助員	川村 優子	映像制作 （H26.4.1～10.31）
理学研究院 准教授	川本 思心	兼務教員
情報基盤センター 教授	布施 泉	兼務教員
情報基盤センター 助教	山本 裕一	兼務教員
高等教育推進機構 教授	細川 敏幸	兼務教員
高等教育推進機構 准教授	三上 直之	兼務教員
高等教育推進機構 准教授	石村 源生	兼務教員

2.2 運営体制

オープンエデュケーションセンターの運営組織として、オープンエデュケーション専門委員会が設置されている。本委員会における審議事項は下記の通りである。

- OER を活用した教育及び学習支援の企画及び立案並びに実施に関すること
- その他本学の OER に係る研究開発の推進に関すること

また、オープンエデュケーション専門委員会には、「デジタル教材開発専門部会」が置かれている。本専門部会の審議事項は下記の通りである。

- デジタル教材の開発、作成支援及び運用に関する事項

3. 機能

3.1 サービス一覧・問合せ先

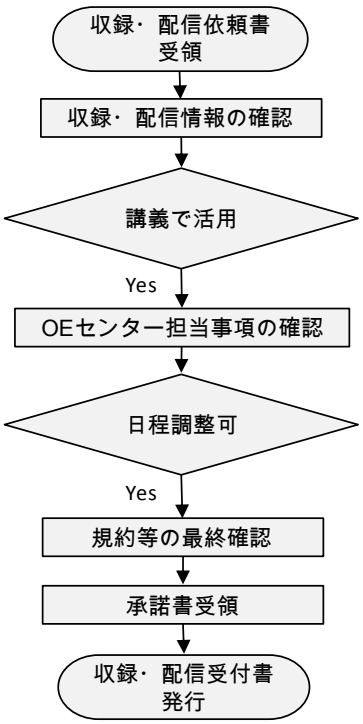
オープンエデュケーションセンターにおけるサービスは、主にオープン教材（OER）の制作支援、オープン教材制作における著作権処理、オープン教材を掲載する Web サイト等の制作である。そのほか、付随するサービスとして下記に示すように、e ラーニングシステムの運用支援、コンテンツ二次利用、広報資料等のデザイン等をサービスとして行っている。各サービスに関する問合せ先は、下記の通りである。

サービス	問合せ先 （内線）	問合せ先 （メールアドレス）
収録・配信の申込	8080	secretariat@open-ed.hokudai.ac.jp
映像等コンテンツ制作	8078	staff@open-ed.hokudai.ac.jp
コンテンツ制作にかかる著作権処理	8081	staff@open-ed.hokudai.ac.jp
コンテンツ配信	8079	staff@open-ed.hokudai.ac.jp
e ラーニングシステムのお問い合わせ	8079	staff@open-ed.hokudai.ac.jp
デザインに関するお問い合わせ	8078	staff@open-ed.hokudai.ac.jp
コンテンツ二次利用のお問い合わせ	8081	copyright@open-ed.hokudai.ac.jp

3.2 収録・配信受付フロー

オープンエデュケーションセンター（OE センター）における収録・配信の受付フローは以下の通りである。

1. 「収録・配信依頼書」（資料Ⅱ：収録・配信申込書）の受領
   教員が収録／配信希望の講義の概要、目的、講義における活用形態、コンテンツ数、日程等を記載・提出する。
2. 収録・配信情報の確認
   OE センターで概要、コンテンツ数、日程、公開範囲、ライセンス条件等の情報を確認。
3. 講義における活用形態の確認
   OE センターでは、学内教育で活用する教材開発・配信を行うことが主なミッションとなっていることから、講義における活用形態を重要視して受け入れ可否の検討を行う。
4. OE センター担当事項の確認
   OE センターで担当する事項を確認し、作業工数の見積りや日程調整を行う。
5. 規約等の最終確認、承諾書受領
   OE センター担当者が著作権の帰属、ユーザ利用条件、再利用条件を説明し、教員が承諾書にサインする。
6. 「収録・配信受付書」（資料Ⅲ：収録・配信受付書一覧）の発行



収録・配信の受付フロー

3.3 制作フロー

映像制作については、OE センタースタッフが映像の収録、編集及び著作権処理を行うことで、講義の担当教員、公開講座等の講演者、主催者の負担を軽減している。コンテンツ制作の大まかな流れについては、下図の通りである。



コンテンツ制作フロー

3.3.1 打ち合わせ

教材制作に関する日程確認・目的の明確化作業を行う。

OE センターが公開する「講義映像」を制作する場合、おおまかに以下の2点を確認して作業をすすめている。

- 講義形式、スケジュールの確認
- コンテンツの運用方法、著作権に関する説明

その他、学生が主役となる「プレゼンテーション」や「ディスカッション」中心の講義の場合、出席学生に「収録同意書」を配布し、必要であれば肖像権の処理（ボカシなど）を行うことを説明する。

3.3.2 講義資料作成

担当教員が講義資料を作成する。

OCW コンテンツの場合、担当教員の作成したスライド（パワーポイントデータ）を、収録動画と組み合わせる。

3.3.3 著作権処理

担当教員からの資料提供を受けて、著作権処理を開始する。

詳細については、「3.4 著作権処理」を参照されたい。

3.3.4 素材の収録

担当教員の講義や、必要な動画素材を収録する。

2013 年度までは、講義（講演会・セミナー等）を収録する形式が中心だったが、2014 年度からは、授業で使用するための教材を一から作成する収録が増えてきている。

前者の形式を【講義収録型】、後者の形式を【スタジオ収録型】として記述する。

【講義収録型】

開講されている教室へカメラ2台を持ち込んで収録する。Camtasia Studio がインストールされたノート PC を用いて、授業中に教材制作することも試みている。

【スタジオ収録型】

ライティングと防音設備が整ったスタジオにて収録する。

この形式は、2014 年 4 月に制作を開始した「英語 I :How to Make Yourself Understood (2015)」においてはじめて試みた。本コンテンツはメディア・コミュニケーション研究院のスタジオ型演習室で収録を行った。その他、使用可能なスタジオとして、情報基盤センターのスタジオが挙げられる。

3.3.5 動画の編集から公開まで

収録が終わり次第、動画編集を開始する。並行して進んでいる第三者著作物の対応方針が決定次第編集に反映させる作業を行っている。編集工程は3工程（荒編，試作用，公開用）にわかれている。

【荒編集】

1. オープニングタイトル作成
2. エンドクレジット作成
3. カット編集
4. 全編視聴
5. スライド側動画処理
6. 講師側動画処理
7. 作業の見直し・確認

「5. スライド側動画処理」については、A: カメラ撮影した動画をそのまま使用、B: Camtasia Studio で記録した動画を MP4 に変換して使用、C: 担当教員（講師）作成のパワーポイントデータを PNG に差し替えて使用、の 3 パターンから選択して作業を行う。

【試作編集】

荒編集の総チェックと修正、音量調整、色味調整、その他の特殊処理を行う。

一般人や許諾を得ていない学生さんの肖像、個人情報などは、ぼかし処理を施すか削除して対応する。著作権処理の対応方針が確定している場合、編集に反映させる。

編集完了後、配信用ファイル（MP4と FLV）を「試作」フォルダへ書き出す。その後、仮サイト上にアップロードし、担当教員（講師）に試写を依頼する。

【公開用編集】

試写を終えた担当教員の回答、あるいは著作権処理の対応方針確定に基づく編集を行う。高画質の完パケデータは「保存」フォルダへ、公開用の低解像度データは「公開用」フォルダへ書き出している。

講義収録型の撮影・編集についてはワークフローが出来上がっているが、簡易スタジオ型などの講義収録以外の教材作りにおいては、ワークフローはまだ完成されていない。

「英語 I」の制作においては、全 15 回の教材制作に一年を費やした。担当教員である奥聡准教授をはじめ、多くの方の熱意と協力のおかげで、非常に質の高い教材が完成した。配布用教材 DVD においては、メディア・コミュニケーション研究院のセンター長より、100 セットの増産依頼を受けた。 ただし、より効率的に同様の成果を得られるよう、工程を見直す必要がある。

次年度以降の大きな課題は、デジタル教材づくりにおける「質」と「量」のバランスをいかにとるか、ということである。教材の特性や目的によって、収録方法や編集方法が変動することを前提としながらも、効率的に作業を進められる環境を整備しなければならない。

3.4 著作権処理

3.4.1 はじめに

北海道大学オープンエデュケーションセンターでは、Web サイト上で講義資料を公開する際には、著作権法の順守を特に重要視している。

日本の著作権法では、第 35 条に示されるように、教育機関における授業の中での著作物の使用については、著作権者の利益を不当に害することなく、必要と認められる限度においては、著作権者の許諾を得る必要がない。しかし、それは授業が行われる場に限定されており、たとえ教育機関の Web サイトであっても、インターネット等で公開する場合は同条の適用はされない。

また、著作権法第 32 条第 1 項の「引用」に該当するのであれば、著作者の許諾を得ずとも利用が可能であるが、「正当な範囲内」となる要件を満たすこと、引用の必然性があることを示す必要がある。現状としては、条件をきちんと満たしているか否かが不明確な場合、もしくは担当者が判断できない場合が多いことから、オープンエデュケーションセンターでは、第三者著作物は、原則、著作者の許諾を得てから掲載している。

（学校その他の教育機関における複製等）

第 35 条 学校その他の教育機関（営利を目的として設置されているものを除く。）において教育を担任する者及び授業を受ける者は，その授業の過程における使用に供することを目的とする場合には，必要と認められる限度において，公表された著作物を複製することができる。ただし，当該著作物の種類及び用途並びにその複製の部数及び態様に照らし著作権者の利益を不当に害することとなる場合は，この限りでない。

2 公表された著作物については，前項の教育機関における授業の過程において，当該授業を直接受ける者に対して当該著作物をその原作品若しくは複製物を提供し，若しくは提示して利用する場合又は当該著作物を第 38 条第 1 項の規定により上演し，演奏し，上映し，若しくは口述して利用する場合には，当該授業が行われる場所以外の場所において当該授業を同時に受ける者に対して公衆送信（自動公衆送信の場合にあっては，送信可能化を含む。）を行うことができる。ただし，当該著作物の種類及び用途並びに当該公衆送信の態様に照らし著作権者の利益を不当に害することとなる場合は，この限りでない。

（引用）

第 32 条 公表された著作物は，引用して利用することができる。この場合において，その引用は，公正な慣行に合致するものであり，かつ，報道，批評，研究その他の引用の目的上正当な範囲内で行なわれるものでなければならない。

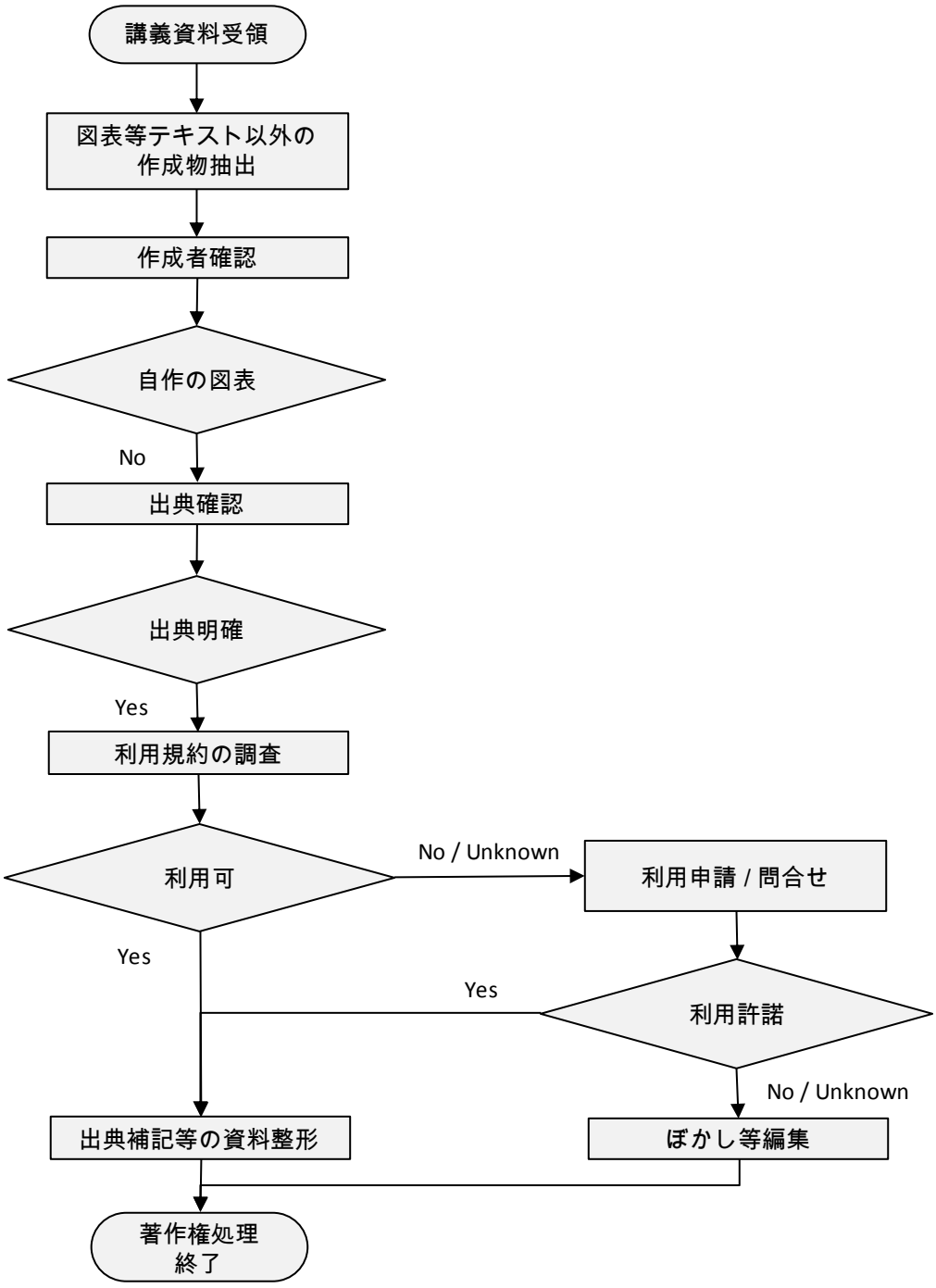
2 国若しくは地方公共団体の機関，独立行政法人又は地方独立行政法人が一般に周知させることを目的として作成し，その著作の名義の下に公表する広報資料，調査統計資料，報告書その他これらに類する著作物は，説明の材料として新聞紙，雑誌その他の刊行物に転載することができる。ただし，これを禁止する旨の表示がある場合は，この限りでない。

3.4.2 著作権処理作業

講義・講演資料の Web 公開に際しては、利用している図表等の原著作者から転載の許諾を要する必要性が多くの資料で見受けられる。この利用許諾を申請する作業は、教員・講演者にとって非常に煩雑なものであり、オープンエデュケーションセンターで代行してきた。講義・講演資料で第三者著作物が使用されている場合は、その第三者著作物に関する情報提供を当該担当者に求め、講義・講演資料を第三者著作物 1 点ごとに精査し、明確にパブリックドメインとして自由に利用できる、あるいは引用として明確である場合以外は、すべて著作権者に使用許諾を求める手続きをしている。以下に、オープンエデュケーションセンターが行っている著作権処理と使用許諾申請結果等を記述する。

著作権処理は、下記のような手順となる（著作権処理フローチャート）。

1. 講義・講演資料に含まれる全ての著作物（図版、表、グラフ、写真、地図など）を抽出
2. 著作者（作成者）の確認
   図等の作成者が第三者かどうかチェックする。
3. 出典の確認
   出典の情報が正しいかどうか等チェックする。
4. 利用規約の確認
   第三者著作物の出版・発行者（以下、発行者）の Web サイト等を確認し、何らかの規約が明示されている場合には、その形式や手順に従う。使用条件が明示されていない場合には問い合わせを行う。使用条件と申請方法が明らかになった後、指定された書式、手順で申請を行う。
5. 著作権者へ使用許諾申請
   発行者が特に明示していない場合には、最初の問い合わせの段階で、講義資料に掲載して公開すること、非営利・教育目的の使用であること、利用条件等を明示し、許諾依頼の書類を添付する。これにより、使用許諾申請を兼ねたものになっている。
6. 利用規約または申請結果への対応
   利用規約や返答で提示された条件にしたがい、出典表示の修正、画像差替え等、また映像コンテンツの場合には、ボカシ処理や削除処理を施す。



著作権処理フローチャート

3.5 配信プラットフォーム

北海道大学オープンエデュケーションセンターでは、教材をネットワーク経由で配信するための主なプラットフォームとして「OCW」「iTunesU」「LMS（Moodle）」の 3 つを用意している。

3.5.1 一般公開用の Web サイト（OCW）

従来から公開している OCW（Open Course Ware）サイトを、OE センターにおいても配信サイトとして引き続き運用している。誰でも利用できる公開サイトであり、多くの方々がアクセスしている。OE センターが制作・アップロードしているコンテンツも順調に増加している。

3.5.2 一般公開用の外部 Web サイト（iTunesU）

Apple 社が運営している教育向けコンテンツ配信サイト「iTunesU」に、北海道大学としてのパブリックサイトを開設している。OE センターでは 2012 年 1 月の開設当初から、OCW コンテンツをこのサイトからも並行配信している。なお、別途行っているポッドキャスト配信はこのサイトに一元化する予定である。

3.5.3 登録ユーザへの限定配信が可能な LMS（Moodle）

今年度から、センターが運営する LMS（Learning Management System）として Moodle サーバを構築した。このシステムはコンテンツの一般公開も可能だが、登録ユーザのみが閲覧できるように制限することもできる。また、コンテンツの視聴ログなどの学習履歴をユーザ毎に取得することも可能である。

Moodle は他にも様々な機能を持っており、ブラウザ上でのテストおよび自動採点、フォーラムやチャットなどコミュニケーションなども行える。次年度以降、授業や学習の改善に活用していく予定である。

4. 活動状況

4.1 活動記録

2014 年

4 月	1 日	オープンエデュケーションセンター設置	
	4 日	新入生対象パンフレット配布	高等教育推進機構
	5 日	バイオミメティクス市民セミナー 「モスアイフィルムの意外な可能性」収録	総合博物館
	9 日	全学教育「英語 I (2015 年度): How to Make Yourself Understood」収録	メディア・コミュニケーション研究院 6F
	10 日	国際交流科目 「英語学 生成文法の研究」収録	人文・社会科学 総合教育研究棟
	12 日	北大総合博物館土曜市民セミナー 「外来アライグマ対策を通して見える人間社会」収録	総合博物館
	16 日	全学教育「英語 I (2015 年度): How to Make Yourself Understood」収録	メディア・コミュニケーション研究院 6F
	17 日	国際交流科目 「英語学 生成文法の研究」収録	人文・社会科学 総合教育研究棟
	18 日	CEED 見学会	工学研究院
	23 日	第 19 回時計台サロン 「広大な研究林は理想の屋外実験室」収録	札幌市時計台
	24 日	国際交流科目 「英語学 生成文法の研究」収録	人文・社会科学 総合教育研究棟
		CEED 勉強会	工学研究院
	24 日	第 1 回オープンエデュケーションセンター運営会議	高等教育推進機構
	30 日	全学教育「英語 I (2015 年度): How to Make Yourself Understood」収録	メディア・コミュニケーション研究院 6F
5 月	1 日	国際交流科目 「英語学 生成文法の研究」収録	人文・社会科学 総合教育研究棟
	3 日	バイオミメティクス市民セミナー 「花粉を真似た材料」収録	総合博物館

	8 日	国際交流科目 「英語学　生成文法の研究」収録	人文・社会科学 総合教育研究棟
	10 日	北大総合博物館土曜市民セミナー 「高次脳機能障害とリハビリテーション」収録	総合博物館
	14 日	全学教育「英語 I (2015 年度): How to Make Yourself Understood」収録	メディア・コミュニケーション研究院 6F
	15 日	国際交流科目 「英語学　生成文法の研究」収録	人文・社会科学 総合教育研究棟
	21 日	全学教育「英語 I (2015 年度): How to Make Yourself Understood」収録	メディア・コミュニケーション研究院 6F
	22 日	国際交流科目 「英語学　生成文法の研究」収録	人文・社会科学 総合教育研究棟
	29 日	国際交流科目 「英語学　生成文法の研究」収録	人文・社会科学 総合教育研究棟
6 月	4 日	全学教育「英語 I (2015 年度): How to Make Yourself Understood」収録	メディア・コミュニケーション研究院 6F
	5 日	NEW EDUCATION EXPO 2014 セミナー参加	サッポロファクトリー
	11 日	全学教育「英語 I (2015 年度): How to Make Yourself Understood」収録	メディア・コミュニケーション研究院 6F
	12 日	国際交流科目 「英語学　生成文法の研究」収録	人文・社会科学 総合教育研究棟
		北海道地区国立大学連携教育機構見学会	高等教育推進機構
	19 日	国際交流科目 「英語学　生成文法の研究」収録	人文・社会科学 総合教育研究棟
	25 日	全学教育「英語 I (2015 年度): How to Make Yourself Understood」収録	メディア・コミュニケーション研究院 6F
		第 20 回時計台サロン 「地球温暖化と海」収録	札幌市時計台
	26 日	国際交流科目 「英語学　生成文法の研究」収録	人文・社会科学 総合教育研究棟
7 月	1 日	現代日本学プログラム（MJSP）「An Introduction to Study Skills & Modern Japan」収録	メディア・コミュニケーション研究院 6F
	2 日	全学教育「英語 I (2015 年度): How to Make Yourself Understood」収録	メディア・コミュニケーション研究院 6F

3 日	国際交流科目 「英語学 生成文法の研究」収録	人文・社会科学 総合教育研究棟
3-4 日	大学の MOOC 活用に関するワークショップ 参加	サッポロファクトリー
8 日	全学教育「英語 I (2015 年度): How to Make Yourself Understood」収録	メディア・コミュニケーション研究院 6F
9 日	全学教育「英語 I (2015 年度): How to Make Yourself Understood」収録	メディア・コミュニケーション研究院 6F
	オープンエデュケーションセンター説明会	高等教育推進機構
10 日	国際交流科目 「英語学 生成文法の研究」収録	人文・社会科学 総合教育研究棟
12 日	北大総合博物館土曜市民セミナー 「映像で見る おしょろ丸 IV 世」収録	総合博物館
15 日	現代日本学プログラム(MJSP) 「An Introduction to Study Skills & Modern Japan」収録	メディア・コミュニケーション研究院 6F
16 日	全学教育「英語 I (2015 年度): How to Make Yourself Understood」収録	メディア・コミュニケーション研究院 6F
17 日	国際交流科目 「英語学 生成文法の研究」収録	人文・社会科学 総合教育研究棟
	全学教育「英語 I (2015 年度): How to Make Yourself Understood」収録	メディア・コミュニケーション研究院 6F
	北海道大学公開講座 「経済のグローバル化・脱工業化と地域通貨」収録	情報教育館
	CoSTEP 見学・顔合せ	高等教育推進機構
18 日	全学教育「英語 I (2015 年度): How to Make Yourself Understood」収録	メディア・コミュニケーション研究院 6F
	第 2 回オープンエデュケーションセンター運営会議	高等教育推進機構
	CEED 勉強会	工学研究院
22 日	現代日本学プログラム(MJSP) 「An Introduction to Study Skills & Modern Japan」収録	メディア・コミュニケーション研究院 6F
23 日	全学教育「英語 I (2015 年度): How to Make Yourself Understood」収録	メディア・コミュニケーション研究院 6F
24 日	国際交流科目 「英語学 生成文法の研究」収録	人文・社会科学 総合教育研究棟

	29 日	現代日本学プログラム（MJSP）「An Introduction to Study Skills & Modern Japan」収録	メディア・コミュニケーション研究院 6F
	30 日	全学教育「英語 I (2015 年度): How to Make Yourself Understood」収録	メディア・コミュニケーション研究院 6F
8 月	1 日	PARE 基礎論Ⅲ調整会議参加	工学研究院
	4 日	総長室経費プロジェクト研究説明会	高等教育推進機構
	6 日	人文学カフェ「南の島から世界を描く フィールドワーク的思考のススメ」収録	札幌駅地下歩行空間 北3条広場
	7日	総長室経費プロジェクト研究説明会	高等教育推進機構
	8 日	PC カンファレンス JMOOC 反転授業 見学	札幌学院大学
	12-13 日	CoSTEP 映像制作講座 参加	高等教育推進機構
	19 日	全学教育「英語 I (2015 年度): How to Make Yourself Understood」収録	メディア・コミュニケーション研究院 6F
	20 日	全学教育「英語 I (2015 年度): How to Make Yourself Understood」収録	メディア・コミュニケーション研究院 6F
	28 日	学生の個人情報の取り扱いに関する勉強会 参加	高等教育推進機構
9 月	1-4 日	Cloud Week 2014 参加	学術交流会館 情報基盤センター
	4-5 日	教育改革 ICT 戦略大会 参加	アルカディア市ケ谷私学会館（東京）
	6 日	全国 e-learning クラウド実務担当者会議 参加	UDXGalleryNext-1（東京）
	11 日	PARE Summer School Final Presentation 収録	情報教育館
	13 日	北大総合博物館土曜市民セミナー「美術の北大展－北海道大学所蔵作品悉皆調査報告－」収録	総合博物館
	19 日	全学教育「英語 I (2015 年度): How to Make Yourself Understood」収録	メディア・コミュニケーション研究院 6F
10 月	1 日	全学教育科目 英語演習「中級：言語音声を信号処理ソフトウェアを用いて分析する ——毎週英語で実習し発表する」	屋内運動場

		香港科技大懇談	国際本部応接室
	2-3 日	CRIC 著作権ビジネス講座　参加	京都ガーデンパレス（京都）
	4 日	Blackboard Learning and Teaching conference Tokyo2014　参加	ベルサール八重洲（東京）
	8 日	全学教育科目　英語演習「中級：言語音声を信号処理ソフトウェアを用いて分析する ――毎週英語で実習し発表する」収録	高等教育推進機構
	15 日	北京（北海道大学北京オフィス、北京科技大）訪問	北京（中国）
		全学教育科目　英語演習「中級：言語音声を信号処理ソフトウェアを用いて分析する ――毎週英語で実習し発表する」収録	高等教育推進機構
	16 日	北京（CAS）訪問	北京（中国）
		全学教育科目　思索と言語 「言葉を科学する」収録	高等教育推進機構
	17 日	大連（大連理工大）訪問	大連（中国）
	22 日	全学教育科目　英語演習「中級：言語音声を信号処理ソフトウェアを用いて分析する ――毎週英語で実習し発表する」収録	高等教育推進機構
	23 日	全学教育科目　健康と社会 「学びのユニバーサルデザイン」収録	高等教育推進機構
	28 日	全学教育「英語 I (2015 年度): How to Make Yourself Understood」収録	メディア・コミュニケーション研究院 6F
	29 日	全学教育科目　英語演習「中級：言語音声を信号処理ソフトウェアを用いて分析する ――毎週英語で実習し発表する」収録	高等教育推進機構
		経費の不正使用防止等説明会　参加	クラーク会館
11 月	4 日	放射線障害防止の教育訓練（英語）収録	アイソトープ総合センター
	5 日	全学教育科目　英語演習「中級：言語音声を信号処理ソフトウェアを用いて分析する ――毎週英語で実習し発表する」収録	高等教育推進機構

	8-9 日	原子力バックエンド教育（基礎教育）収録	フロンティア応用科学研究棟
	12 日	全学教育科目　英語演習「中級：言語音声を信号処理ソフトウェアを用いて分析する ――毎週英語で実習し発表する」収録	高等教育推進機構
	18 日	制御工学 I　教材収録	高等教育推進機構
	19 日	全学教育科目　英語演習「中級：言語音声を信号処理ソフトウェアを用いて分析する ――毎週英語で実習し発表する」収録	高等教育推進機構
	25 日	サステナビリティ国際シンポジウム収録	学術交流会館
	26 日	全学教育科目　英語演習「中級：言語音声を信号処理ソフトウェアを用いて分析する ――毎週英語で実習し発表する」収録	高等教育推進機構
12 月	3 日	全学教育科目　英語演習「中級：言語音声を信号処理ソフトウェアを用いて分析する ――毎週英語で実習し発表する」収録	高等教育推進機構
	6-7 日	原子力バックエンド教育（専門教育） 収録	工学部／工学研究院
	10 日	全学教育科目　英語演習「中級：言語音声を信号処理ソフトウェアを用いて分析する ――毎週英語で実習し発表する」収録	高等教育推進機構
	10-12 日	大学 ICT 推進協議会　2014 年度年次大会参加	仙台市情報・産業プラザ他（宮城）
	12 日	JOCW 幹事会	TKP ガーデンシティ仙台（宮城）
	17 日	全学教育科目　英語演習「中級：言語音声を信号処理ソフトウェアを用いて分析する ――毎週英語で実習し発表する」収録	高等教育推進機構
	24 日	全学教育科目　英語演習「中級：言語音声を信号処理ソフトウェアを用いて分析する ――毎週英語で実習し発表する」収録	高等教育推進機構

2015 年

1 月	5 日	がんプロ「医学統計」収録①	医学研究科
	6 日	PARE 基礎論調整会議 参加	国際本部
	7 日	がんプロ「医学統計」収録②	医学研究科
		全学教育科目 英語演習「中級：言語音声を信号処理ソフトウェアを用いて分析する ――毎週英語で実習し発表する」収録	高等教育推進機構
	8 日	JOCW 総会	明治大学国際総合研究所（東京）
		がんプロ「医学統計」収録③	医学研究科
	8-9 日	PARE 基礎論調整会議 参加	国際本部
	9 日	PARE 基礎論Ⅲ 収録	国際本部
	14 日	全学教育科目 英語演習「中級：言語音声を信号処理ソフトウェアを用いて分析する ――毎週英語で実習し発表する」収録	高等教育推進機構
	16 日	PARE 基礎論Ⅲ 収録	国際本部
		制御工学Ⅰ 教材収録	高等教育推進機構
	21 日	文学部専門科目 英米文学	人文・社会科学
		「Applied Literature for Sustainability」収録	総合教育研究棟
	27 日	V-CUBE 大学の ICT 教育トレンドと最新事例セミナー 参加	※遠隔参加
	28 日	文学部専門科目 英米文学	人文・社会科学
		「Applied Literature for Sustainability」収録	総合教育研究棟
2 月	4 日	PARE インタビュー収録	農学研究院
		タフツ大学のオープン・エデュケーション“Open Access: Transforming teaching, research, and collaboration” 講演会参加	医学部学友会館
	7 日	バイオミメティクス市民セミナー	総合博物館
		「ミメティクスおもしろネタの源としての昆虫分類学、形態学」収録	
	12 日	CEED 見学会	工学研究院
	13 日	PARE インタビュー収録	農学研究院
	17 日	北海道大学総合博物館見学会	総合博物館

	20-22日	Moodle Moot（ムードルムート） JAPAN 2015 参加	京都産業大学（京都）
	21 日	FLIT 第 3 回公開研究会参加	東京大学本郷キャンパス（東京）
	22 日	AP 採択記念 FD フォーラム参加	創価大学（東京）
	24 日	Future learn CEO OE センター視察	高等教育推進機構
	27 日	北大 WEB 購買サイトに関する説明会 参加	医学部学友会館
	28 日	原子力バックエンド教育（国際教育） 収録	学術交流会館
3 月	1 日	原子力バックエンド教育（国際教育） 収録	学術交流会館
	3,6,9,13,23日	OE センター内 映像制作技術研修 実施	高等教育推進機構
	10-11日	edX Innovations in Teaching and Learning 参加	東京大学本郷キャンパス（東京）
	12 日	河村公隆教授 最終講義 「有機酸の地球化学とその七変化：100 年後の大気環境と人類社会の展望」収録	低温科学研究所
	15-16日	慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス視察訪問	慶應義塾大学（神奈川）
	16 日	北海道地区国立大学連携教育機構モデル授業視察（予定）	高等教育推進機構
	17-22日	PARE Spring School 収録	ジャカルタ（インドネシア）
	18 日	北海道地区国立大学連携教育機構モデル授業視察（予定）	高等教育推進機構
	28 日	教学戦略フォーラム参加	日本大学（東京）
	31 日	2014 年度北海道大学オープンエデュケーションセンター活動報告書発行	

4.2 コンテンツ収録・受領状況

以下に本年度収録・制作を行ったコンテンツ一覧を下記に示す。2014 年 7 月からは、学内教育に活用できるコンテンツを優先的に受付けるようにしている。

（2015 年 2 月末現在）

コンテンツ種別		コンテンツ数
OCW コンテンツ	全学教育	61
	学部専門教育	21
	その他正規プログラム※1	5
	講義活用セミナー	25
	公開講座／セミナー	14
e ラーニングコンテンツ	大学院教育	2
	その他正規プログラム※1	2
	その他 e ラーニング※2	13
	サポート※3	3
	合計	146

※1 その他正規プログラムとは、現代日本学プログラムや世界展開力 PARE プログラム等、単位取得が伴う正規講義を指す。

※2 その他 e ラーニングとは、放射線障害防止のための教育訓練など、正規講義ではないものの全学的にサポートするコンテンツを指す。

※3 サポートとは、がんプロフェッショナル要請基盤推進プランなど、e ラーニング実施にあたりオープンエデュケーションセンターがサポートするコンテンツを指す。

4.3 コンテンツ公開状況

2014 年度に新規に公開する OCW コンテンツおよび e ラーニングコンテンツは下記の通り（2015年3月公開予定を含む）。なお、数字には2013年度までに収録したコンテンツも含まれる。

コンテンツ種別		コンテンツ数
OCW コンテンツ	全学教育	46
	学部専門教育	15
	その他正規プログラム※1	5
	講義活用セミナー	9
	公開講座／セミナー	25
e ラーニングコンテンツ	大学院教育	2
	その他正規プログラム※1	1
	その他 e ラーニング※2	4
	サポート※3	3
	合計	110

※1 その他正規プログラムとは、現代日本学プログラムや世界展開力 PARE プログラム等、単位取得が伴う正規講義を指す。

※2 その他 e ラーニングとは、放射線障害防止のための教育訓練など、正規講義ではないものの全学的にサポートするコンテンツを指す。

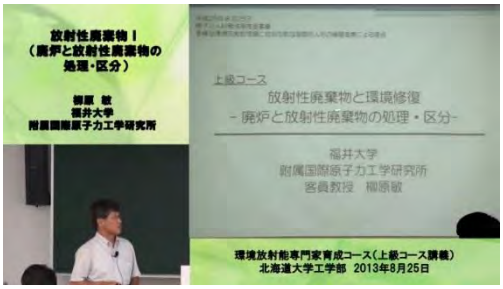
※3 サポートとは、がんプロフェッショナル要請基盤推進プランなど、e ラーニング実施にあたりオープンエデュケーションセンターがサポートするコンテンツを指す。

4.4 公開コンテンツ概要

2014 年度に新規公開となった OCW コンテンツおよび e ラーニングコンテンツの概要は下記の通りである(2015 年 3 月公開予定を含む)。

2014 年

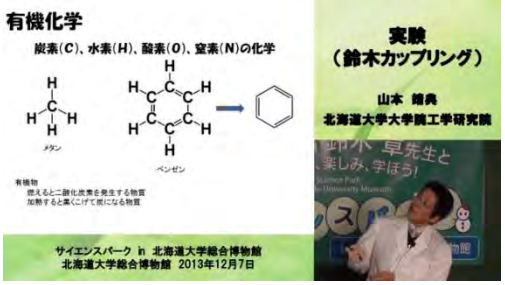
環境放射能専門家育成コース(上級コース)講義
「放射性廃棄物 I (廃炉と放射性廃棄物の処理・区分)」4 月 3 日公開



本事業では、放射線や放射能および原子力について正確な知識を習得し、原子力工学分野のみならず、環境科学、放射化学、保健物理学、獣医学、農学などの他分野の視点から環境放射能の諸課題を学び、さらに放射線計測の実習を通して環境放射能測定の技術を習得した、多様な環境放射能問題に対応可能な国際的人材を育成することを目的と致します。

上級コースは、環境放射能に関連する分野で将来国際的に活躍できる人材の育成を目標とした、放射性廃棄物処理・処分技術および環境修復技術に関する講義ならびに非密封放射性同位体を用いた関連実験とフィールドワークを受講できるコースです。また、講義の成果をもとにした発表を通して、一般市民への情報発信スキルを身につけることができます。(原子力人材育成等推進事業 HP より)

サイエンスパーク in 北海道大学総合博物館(2013 年度)4 月 8 日公開



北海道大学名誉教授の鈴木章氏をお招きし、本道の未来を担う子どもたちに、生活の利便性向上や社会経済の発展に大きく貢献する科学技術への関心を高めてもらうため、「見て、触れて、楽しんで、学ぶ」ことができる「体験型の交流の場」を創

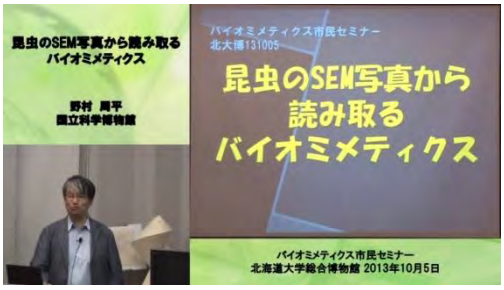
出しました。

第 14 回バイオミメティクス市民セミナー
「ものつくりと暮らし方の新潮流を創る　－ネイチャー・テクノロジー－」4 月 9 日公開



2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災は、私たちにあらためて豊かに暮らすこととはどういうことなのか？地球環境問題とはなにか？そして、そのためにテクノロジーはどのように貢献できるのかを問うています。次の世代のためにも、今私たちはこの問いに答えを出さねばなりません。それは、何かと何かを置き換えるテクノロジーであったり、今までの延長である、物質的な豊かさを求めることではありません。自然のすごさを賢く活かし、ワクワクドキドキする心豊かな暮らしのかたちを創り上げることなのです。このセミナーでは、厳しい地球環境制約の中で、バックキャスト思考により創出されたライフスタイルに必要なテクノロジーを自然の中から見つけ出すネイチャー・テクノロジーについて考えてみたいと思います。

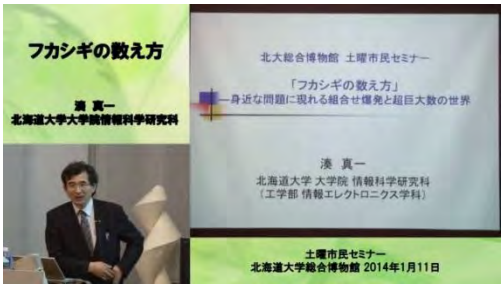
第 22 回バイオミメティクス市民セミナー
「昆虫のSEM写真から読み取るバイオミメティクス」5 月 7 日公開



走査型電子顕微鏡（SEM）写真は、資料の色を反映することができない白黒写真であるが、他の顕微鏡では不可能な高倍率、高解像度での生物の表面構造の観察が可能である。特に昆虫の形態情報が不足しがちな1ミクロン前後の微細表面構造とその機能について、SEM写真は非常に多くの情報を与えてくれる。私たちが知っているようで知らない、または知っているはずなのに忘れている昆虫の微細構造の例を挙げ、筆者らが撮影したSEM写真を多く用いて解説する。

北海道大学総合博物館土曜市民セミナー

「『フカシギの数え方』―身近な問題に現れる組合せ爆発と超巨大数の世界」5 月 13 日公開



「不可思議(フカシギ)」とは、万、億、兆、京などと続く数の単位で、1の後に0が64個も続く数のことです。みなさん想像できますか？実は、畳の敷き詰め方から電車の乗り換え案内まで、私たちの身の回りにある様々な組合せの中に、フカシギのような超巨大数が現れます。このセミナーでは身近な問題を題材にして、「組合せ爆発」のものすごさと、それに立ち向かう最先端の情報科学の研究成果をご紹介します。

第 21 回バイオミメティクス市民セミナー

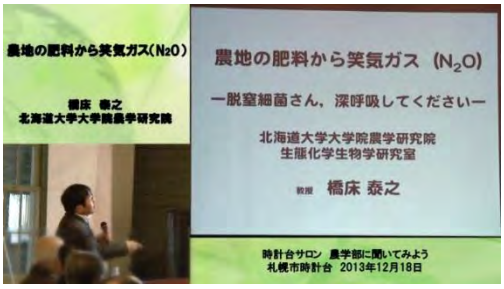
「魚類学者から見たバイオミメティクス」5 月 22 日公開



魚類に関する研究分野をひとまとめにして魚類学(Ichthyology)、その研究者を魚類学者(Ichthyologists)と呼びます。魚類学の成果として、毎年 300 種前後の新種が発見されており、生物多様性の研究において目が離せない存在です。魚類学者たちは博物館や大学に保管されている膨大な量の魚類標本から分類学、系統学、生態学などに関するデータを日々集めています。魚類学とバイオミメティクスとの出会いにより、魚類標本やそれらのデータからは、生物学の枠を超えた新たな価値がみいだされることが期待されています。

時計台サロン

第 17 回「身近にいた温暖化の意外な"犯人" 」6 月 6 日公開



時計台サロン「農学部に聞いてみよう」、第17回「身近にいた温暖化の意外な"犯人"」の模様です。

第一講演では、小林先生が「牛のゲップからのメタンガス」と題して、家畜のゲップから発生するメタンガスと地球温暖化についてお話します。

第二講演では、橋床先生が「農地の肥料から笑気ガス」と題して、亜酸化窒素 (N_2O)につい

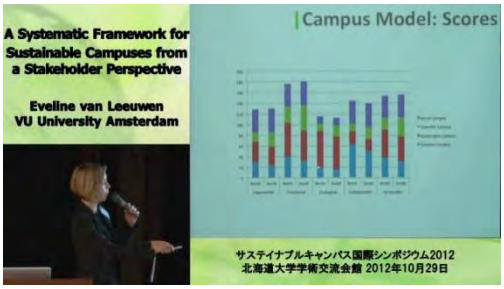
	てご自身の研究内容と交えてお話します。

第 11 回創成シンポジウム
「石狩から電力革命 ―目指せ！送電ロス・ゼロの世界―」5 コンテンツ 6 月 17 日公開



北海道大学創成研究機構ではこのたび、「次世代エネルギー」をテーマにシンポジウムを開催致します。講演者達が産・学・官それぞれの立場で平成 25 年 1 月に経済産業省の委託（約 40 億円）を受けスタートした「石狩超電導直流送電プロジェクト」を中心にお話致します。テレビなどでお馴染みの佐藤のりゆき氏のナビゲートによるパネルディスカッションもお届けし、エネルギーを通して北海道の未来について考えます。

サステナビリティ・ウィーク「サステイナブルキャンパス国際シンポジウム 2012」6 月 27 日公開



昨年行われた国際シンポジウムでは、日米におけるサステイナブルキャンパスに関するトップランナーの大学と、これまでの取組(Achievements)やこれからの課題(Challenges)について紹介いただき、サステイナブルキャンパス構築に向けた今後の方向性を検討しました。
今回のシンポジウムでは、本学とサステイナブルキャンパスに関する国際交流プロジェクトを協働している欧州 3 大学からサステイナブルキャンパス構築のための行動計画や地域と連携した計画、そして PDCA サイクルを回すための評価項目及びその評価手法について紹介いただき、日欧における計画やその評価項目・手法の違いについて議論し、今後のサステイナブルキャンパス構築に向けた知見を得ることを目的とします。

新渡戸稲造とこれからのグローバル化―『武士道』と国際人―7 月 8 日公開

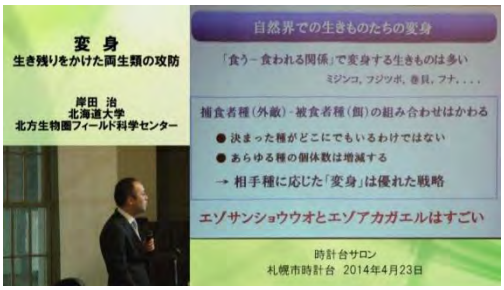


わが国の大学は、かねてより研究・教育上のグローバル化が求められています。なるほど研究成果の世界への発信、海外の大学との学術交流、外国人留学生の受入れ、英語による授業数の増加など、さまざまな取組みが行われています。
しかし、こうした形式的なグローバル化を通して、果たして世界レベルの研究成果が得られるでしょうか。また、真の国際人を育成することができるでしょうか。 いま一度、大学のグローバル化とは何かについて、人文学の視点から、精神的な面をも含めて考える必要があるように思われます。
その際、手がかりとなるのが、北海道大学の前身である札幌農学校の二期生で、卒業後、国際的に活躍した新渡戸稲造です。
　このシンポジウムでは、国内外から新渡戸研究者が集い、新渡戸稲造とその思想に関する報告を行うとともに、それを踏まえて、各分野で国際的に活躍中の本学卒 業生を加えて、これからの国際化社会において、われわれは何に取組み、何を果たすべきかについて討論したいと思います。（シンポジウム HP より引用）

北海道大学総合博物館土曜市民セミナー「有珠火山の植生と土壌の回復」7 月 17 日公開



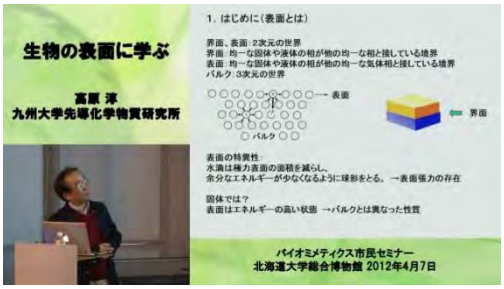
自然界では生物と土壌の関わりについて、生物が土壌を豊かにし、土壌は生物の生息環境として相互に作用するといわれる。それをより実感できるのは火山の噴火跡地であろう。有珠山は近年 1977-78 年と 2000 年に大きな噴火があった。前者では、火口原を囲む外輪山内壁はかつて樹高 30 m に達する森林であったが、噴火で壊滅した後、現在樹高 25 m に達するドロノキからなる森林

	が見られるほどになった。土壌の生成は、地質学者でもあったC. ダーウインが研究したようにミミズの活動があったことによる。植生と土壌の生成発達は同時に進行しているといえる。1977-78 年噴火後のその様子について紹介する。
時計台サロン第 19 回「広大な研究林は理想の屋外実験室 」①7 月 28 日②8 月 14 日公開	
	時計台サロン「農学部に聞いてみよう」、第 19 回「広大な研究林は理想の屋外実験室」の模様です。 第一講演では、中村先生が「森の昆虫と地球温暖化」と題して、なぜ研究林は理想の実験室なのかについてお話します。 第二講演では、岸田先生が「森の昆虫と地球温暖化変身－生き残りをかけた両生類の攻防－」と題して、自然界での生き物たちの変身についてお話します。
北海道大学総合博物館土曜市民セミナー「映像で見る おしょろ丸 IV 世」9 月 1 日公開	
	総合博物館夏季企画展示「学船 洋上のキャンパスおしょろ丸」に関連して、おしょろ丸での学生生活に焦点を当てます。おしょろ丸の活動の様子を映像で紹介し、実際に乗船して学んだ北大生 3 名をゲストに実習や長期航海に参加した際の体験談を語ってもらいます。
サステナビリティ・ウィーク「サステイナブルキャンパス国際シンポジウム 2013」9 月 16 日公開	
	サステナビリティ・ウィークの一環として開催されるサステイナブルキャンパス国際シンポジウムは、今回で3回目を迎えました。昨年のシンポジウムでは、"Living Laboratory"としてキャンパスを活用し、大学と地域が協働した持続可能な社会を構築することが重要と認識されました。今回は「地域と連携したサステイナブルキャンパスの構築」をテーマに、日欧の大学からサステイナブルキャンパス

構築の先進的な活動事例紹介や、今年12月に終了する本学とEU3大学との国際交流プロジェクト"UNI-Metrics"の成果も発表します。地域や民間企業と連携したサステイナブルキャンパスの将来像と、その構築のための展望を描きます。

第4回バイオミメティクス市民セミナー

「生物の表面に学ぶ:撥水、親水、防汚、潤滑のための新しい材料」9月16日公開



生物の表面は様々な場所で、その場所に要求される機能特性を示します。生物の特徴は環境負荷が少なく、低エネルギーで様々な機能特性を示すことがあげられます。私たちもソフトマテリアル（プラスチック、ゴム、ゲル、液晶など）の科学の技術を駆使してようやく生物の示すような表面の機能性を実現することが出来るようになりました。

本講演では

1、表面の凹凸を利用した撥水性

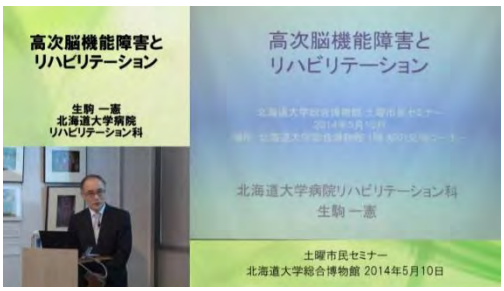
2、水に対して濡れ易い高分子のひげ（ポリマーブラシ）を用いた親水性と防汚性（汚れにくい）表面

3、関節のように水を潤滑剤として低い摩擦係数を示す表面

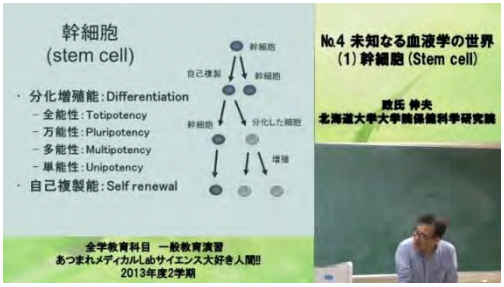
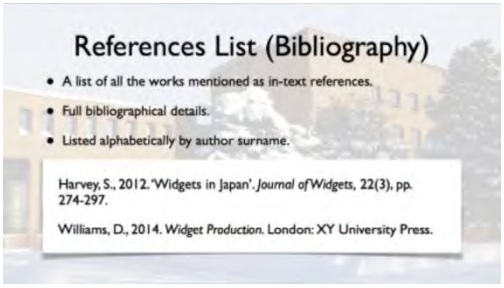
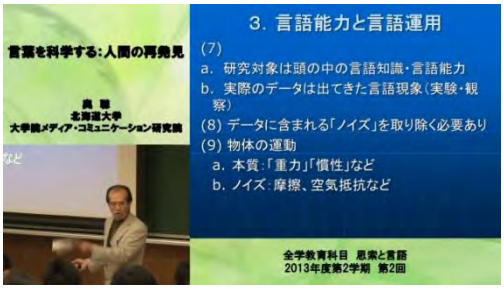
4、水を溶剤として自在に接着・剥離を繰り返すことの出来る材料

などについて紹介します。

北海道大学総合博物館土曜市民セミナー「高次脳機能障害とリハビリテーション」9月16日公開



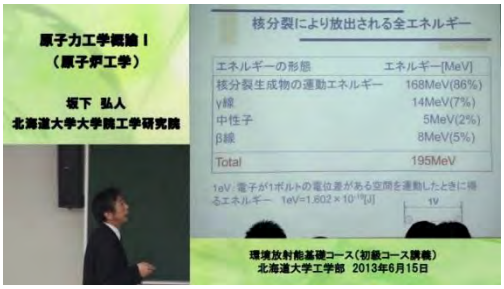
最近の映画「抱きしめたい －真実の物語－」でも話題になった高次脳機能障害ですが、この障害では日常生活や社会生活がスムーズにできなくなり、社会復帰が妨げられます。記憶障害注意障害、遂行機能障害、社会的行動障害などの症状があり、脳の外傷や病気が原因で起こります。自分ではその障害に気づかないことが多く、また、他人からも普通に見えるため、「見えない障害」とも言われます。早期に診断を受けてリハビリテーションを行い、適切な支援を受けることが社会復帰には重要です。講演ではこの高次脳機能障害とリハ

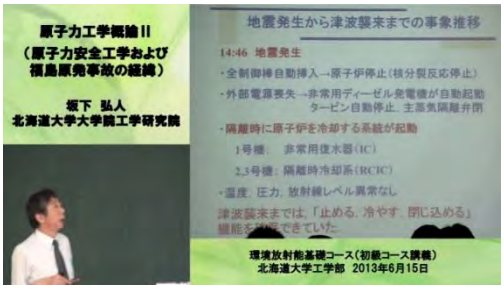
	ビリテーションについて、できるだけわかりやすく解説をしたいと思います。
全学教育一般教育演習（フレッシュマンセミナー） 「あつまれメディカル Lab サイエンス大好き人間!!（2013 年度）」9 月 16 日公開 	「メディカル Lab サイエンス」という造語からどのようなイメージをもちますか? 医学は病気の治療から予防さらに健康維持へと大きな転換期を迎えています。健康を維持していくためにどのようにしたらよいのか…私達の健康を脅かすさまざまな要因からその方策を浮き彫りにして行きます。"健康"を中心に"医学"、"検査"、"生理機能"、"がん"、"血液"、"化学"、"寄生虫"、"エイズ"、"染色体"、"細菌"を有機的に連結し包括的に捉えなおすことで、私達のライフスタイルについてあらためて考えてみましょう！
現代日本学プログラム（MJSP）「An Introduction to Study Skills & Modern Japan（2014 年度）」 5 コンテンツ 9 月 22 日公開 	現代日本学プログラムは，外国人留学生を対象とした4年間の新しい学士課程プログラムです。本プログラムは，現代日本の社会や文化に関心を持ち，十全な英語能力を持った留学生に対して基礎・教養科目を英語で実施するとともに，日本語教育を重点的に行うことにより，日本社会に対する優れた見識を有し，日本社会のみならず国際社会においても日本の真によきパートナーとして活躍するグローバル人材を養成する教育プログラムです。（北海道大学 HP より）
全学教育・思索と言語「ことばを科学する：人間の再発見(2013) 」15 コンテンツ 10 月 7 日公開 	「私の隣にキリンはいない」。「昨日雨が降らなかったら、公園でサッカーができたのに」。これらの文と同じ情報をことば以外の方法（たとえば、図や絵）で簡単に表すことはできないでしょう。また、人間以外の動物のコミュニケーションでもこのような意

味を表す仕組みはないと考えられています。しかし、人間であればどの言語の話者でも 3 歳にもなれば上記のような表現を簡単にすることができます。

この授業では、1950 年代から始まった新しいことば研究の方法論（生成言語理論）を基調に、人間が持つことばのさまざまな側面について考えてみます。特に、自分の母語は自分にとってあまりにも当たり前のものなので、それを客体化してあらためて考えるということをしないばかりか、自分のことばのことは自分がよく知っていると思い込んでしまいがちです。人間のことばを操る能力は実際には大変不思議で、奥が深いものです。その特徴を少し知ることによって、自分自身を含めた人間というものを「再発見」する機会にしたいと考えています。同時に、人間の言語能力の研究方法を通して、科学的な研究の本質とは何かを考えてみる。

環境放射能基礎コース（初級コース）講義「原子力工学概論 I（原子炉工学）」10 月 22 日公開
「原子力工学概論 II（原子力安全工学および福島原発事故の経緯）」　　10 月 28 日公開

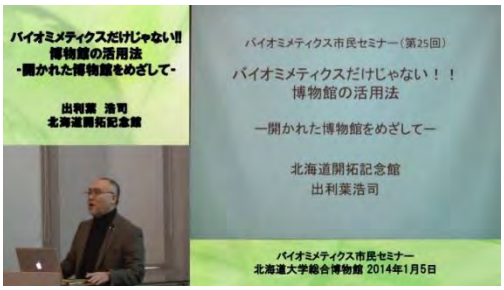




本事業では、放射線や放射能および原子力について正確な知識を習得し、原子力工学分野のみならず、環境科学、放射化学、保健物理学、獣医学、農学などの他分野の視点から環境放射能の諸課題を学び、さらに放射線計測の実習を通して環境放射能測定の技術を習得した、多様な環境放射能問題に対応可能な国際的人材を育成することを目的と致します。

初級コースは、環境放射能に関心を持つ学生ならびに研究機関、民間企業、地方自治体などに所属する社会人が、原子力システム工学概論、核燃料サイクル概論、原子力安全工学概論、基礎放射化学、基礎放射線生物学の講義を受講できるコースです。（原子力人材育成等推進事業 HP より）

第25回バイオミメティクス市民セミナー「バイオミメティクスだけじゃない！！博物館の活用法　開かれた博物館をめざして」10月28日公開



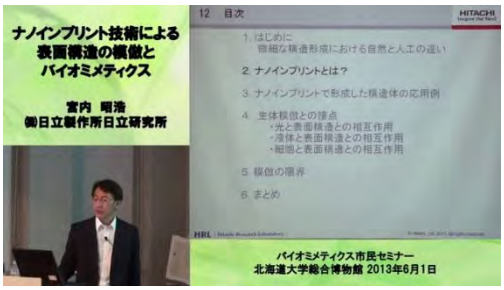
バイオミメティクスという研究は、さまざまな生物を電子顕微鏡で細かく観察するところが出発点。そこからあらためて生物の特徴を考えてみよう。そして、同じような構造を持つ物質を現代科学の力で作ってみようということになるのでしょうか。それでは、なぜ、この市民セミナーは「博物館」でおこなわれるのでしょう？それは、博物館が持つ莫大な標本を活用しようというのが、この研究の「隠し味」だからです。博物館というとまず思い浮かぶのは展示室ですが、そこで展示されている資料は、博物館が所蔵する資料全体からすれば、ほんの一部でしょう。それでは、博物館の所蔵資料を利用するのはごく一部の研究者に限られるのでしょうか？今回のプログラムでは、これまでのお話からちょっと横道にそれて、博物館の楽しみ方について考えてみます。博物館というと展示を見るだけと思っていらっしゃる方は多いのではないでしょうか？展示といっても、さまざまな「かたち」があります。ひと味違った展示の楽しみ方、博物館の利用の仕方、収蔵資料へのアクセスなどについて、お話しします。

人文学カフェ「南の島から世界を描く フィールドワーク的思考のススメ」10月28日公開



太平洋の中に、ソロモン諸島という小さな島国があります。熱帯林豊かなこの島国は、多くの人々が自給自足に近い生活を送っている国であると同時に、民族紛争も経験し、また、グローバル化の波にもまれている国でもあります。南の島は、世界の縮図でもあり、私たちの鏡でもあるのです。

人と自然の関係はどうあるべきなのか。人びとは何に困り、何に喜んでいるのか。そうしたこと

	は、現地に足を運び、話を聞いたり、観察したりすることでわかってきます。こうした研究の方法をフィールドワークと言いますが、この方法のおもしろさや難しさについては、案外よく知られていません。現地に行きさえすれば何かが見えてくるというわけではありません。そもそも現場で何かが見えてくるとはどういうことなのか。その「発見」のおもしろさをお伝えしたいと思います。
第 18 回バイオミメティクス市民セミナー 「ナノインプリント技術による表面構造の模倣とバイオミメティクス」11 月 17 日公開 	生物の表面形状は、進化の過程において周辺環境に適合した形状を得ていきました。そしてその構造は、タンパク質の自己組織化などによって常温で自然に形成されています。一方、人類は微細な構造を形成するために、半導体の微細加工に代表されるような、特殊なガスや真空雰囲気、さらにはプラズマ状態など、特殊な環境を制御することで所定の微細構造を形成しています。同じような微細構造を形成することに対し、アプローチの仕方が大きく異なっています。今後、生物の形態を人工的に模倣することで、我々が日々、購入している製品の付加価値を上げようとする場合、簡便に生物の表面構造を形成できる新しい製造技術の登場が望まれています。本セミナーでは、ナノインプリントと呼ばれる、新しい微細加工技術を紹介し、バイオミメティクスと人工的なナノ加工技術との接点を探ります。
第 27 回バイオミメティクス市民セミナー「シジミチョウ、その騙しのテクニック」11 月 28 日公開 	他の生物の構造や機能を模倣しようとする試みはなにも私達人間だけに限ったことではありません。さまざまな生物が培ってきた長い歴史の中からも、たくさんの巧妙な模倣技術を見出すことができます。本セミナーでは生物個体間の相互作用、特に「アリと共生するシジミチョウ」に関するトピックを中心に、生物が他の生物とのかかわり合いの中でお

	互いの特徴を巧みに模倣し、自身の生存戦略へと応用する技術を紹介したいと思います。
全学教育「英語 I (2015 年度)：How to Make Yourself Understood」 15 コンテンツ 12 月 19 日公開	
	Original Video Materials: 1. Tips for English Speech Sounds (Unit 1-5) 2. Tips for Writing Sensible Paragraphs (Unit 6-10) 3. Steps toward Attractive Presentations (Unit 11-14) 北大発信型オリジナルビデオ教材： 1. 英語発音の基礎（Unit 1-5） 2. パラグラフライティングの基礎（Unit 6-10） 3. 魅力的なプレゼンテーションに向けて（Unit 11-14）

2015 年

原子力バックエンド教育（基礎教育） 9 コンテンツ 3 月 31 日公開（予定） 本事業では、原子力バックエンド分野において、基礎教育、実践的な専門教育、国際教育の3つを行うことで、原子力バックエンド分野の研究開発を国際的にリードする人材を教育・育成を図ることを目的といたします。 基礎教育では、原子力バックエンド分野に関心を持つ学生が、原子力バックエンド分野がカバーしなければならない多様な専門分野に関する概論講義および基礎実験を受講できるコースです。また、基礎教育の内容をオープン教材として作成、公開することにより、一般市民の原子力および原子力バックエンド分野への理解を深める教材とすることを目指しています。（オープン教材の作成・活用による実践的原子力バックエンド教育 HP より引用）
放射線障害防止のための教育訓練（英語版） 4 コンテンツ 3 月 31 日公開（予定） 本学では、放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律（防止法）第 21 条の規定に基づき、全学的な北海道大学放射線障害予防規程及び各放射線施設の管理部局等においても放射線障害予防規程を定め、放射線障害の防止に関し必要な事項を規定している。 本教育訓練は、放射性同位元素等取扱者もしくはエックス線取扱者の新規登録・登録更新希望者（外国人）を対象に実施されたものである。

（北大 HP-研究倫理・生命倫理をもとに編集）

国際交流科目　英語学　生成文法の研究　15 コンテンツ 3 月 31 日公開（予定）

Every child acquires their native language effortlessly and in a very short period. This looks so natural that people do not realize how amazing it is. Current studies of language and language acquisition have revealed several interesting aspects of child language acquisition, many of which do not coincide with what we normally believe about language. In this course, we are going to discuss how actually children acquire their native language. The students also learn basic concepts and methodology of study of human language.(シラバスー授業の目標より引用)

全学教育科目　英語演習「中級：言語音声を信号処理ソフトウェアを用いて分析する ――毎週英語で実習し発表する」 15 コンテンツ 3 月 31 日公開（予定）

This course is suited for students who desire to (a) use technical English, (b) present using computers, and (c) analyze time series.
Preferred skills: Knowledge of linguistics, statistics, experiment design, Fourier transforms, and spectral analyses are advantageous but not essential. We will explain in class what you need to know.
Unimportant skills: Speaking or writing English language accurately is not important. What you want to say is more important than how you say it. No matter how many mistakes you make in words, phrases, or syntax, as long as you have an interesting message you will succeed. By the end of this course, you will learn how to communicate in English.（シラバスより一部引用）

4.5 主な活動

オープンエデュケーションセンターでは、大学教育の改善・改革に関する取り組みの支援を機軸とするため、従来 OCW で行っていた講義をそのままコンテンツ化・公開するスタイルだけではなく、以下に記載するような教育効果が高まると思われる工夫を取り入れながらコンテンツ開発・学習環境構築を行った。

- 一方向の学習システムではなく、MOOC（Massive Open Online Course：大規模公開オンライン講座）や e ラーニングなど双方向の学習システム構築
- 受講確認課題等の知識確認課題制作
- 映像コンテンツをトピック毎にクリップ化
- 細分化されたコンテンツの構造化

1）オープンエデュケーションセンター説明会

従来の OCW など、これまでオープンエデュケーションセンターに収録依頼を申し込まれた教職員の方々を対象に、本年度設立されたオープンエデュケーションセンターの活動方針についての説明会を行った。

2）国際原子力人材育成イニシアティブ事業

「オープン教材の作成・活用による実践的原子力バックエンド教育」

当該事業においてオープン教材を作成・活用するため、OCW コンテンツおよび MOOC 型コンテンツを収録・制作する。それぞれのコンテンツの特徴は以下の通りである。

【OCW コンテンツ】

- 講義をそのままコンテンツ化
- トピック毎（もしくは約 15 分毎）にクリップ化

【MOOC 型コンテンツ】

- 細分化・構造化された映像コンテンツと小テストで構成
- トピック毎にクリップ化および Instructional Design 理論に基づいた構造化

OCWコンテンツはオープンエデュケーションセンター本体が担当し、「基礎教育（9コンテンツ）」、「専門教育（8コンテンツ）」、「国際教育（8コンテンツ）」の 25 コンテンツが収録対象、「基礎教育（9コンテンツ）」が本年度中に公開予定である。MOOC 型コンテンツについては、北海道地区国立大学連携教育機構からの委託事業を実施する Academic Commons for Education (ACE)が担当する。

3）世界展開力 PARE（Populations-Activities-Resources-Environments）プログラム

（人口・活動・資源・環境の負の連環を転換させるフロンティア人材育成プログラム）

海外大学との協働教育プログラムに最適な e ラーニング教材ならびに履修管理を伴うオンライン

授業の仕組みを開発するため、「Summer School（1 コンテンツ）」、「PARE 基礎論Ⅲ（2 コンテンツ）」を収録・制作する。いずれも本年度中に公開予定となっている。

なお、配信環境はオープンエデュケーションセンターが構築し、大学院工学研究院工学系教育研究センター（CEED）が制作した反転授業用教材も履修者限定で配信した。また、来年度は「PARE 基礎論Ⅰ、Ⅱ」についてオープンエデュケーションセンターで反転授業用の教材制作する予定である。

4）全学教育　外国語科目「英語Ⅰ」

「英語Ⅰ」における共通教材として、「How to Make Yourself Understood（15 コンテンツ）」をスタジオ収録・制作した。トピック毎のクリップ化および構造化を図り、「英語発音の基礎（5 コンテンツ）」、「パラグラフライティングの基礎（5 コンテンツ）」、「魅力的なプレゼンテーションに向けて（4 コンテンツ）」から構成されている。15 コンテンツが公開済みである。

公開 URL：http://ocw.hokudai.ac.jp/Course/LiberalArts/EnglishI/EnglishI/2015/

5）国際本部日本語研修コース教育課程（現代日本学プログラム予備課程）

必修科目の 1 つである「An Introduction to Study Skills & Modern Japan」で活用する補助教材として「Writing Academic Essays（5 コンテンツ）」をスタジオ収録・制作した。トピック毎のクリップ化および構造化が図られ、5 コンテンツが公開済みである。

公開 URL：http://ocw.hokudai.ac.jp/Course/MJSP/Foundation/AnIntroduction/2014/

6）放射線障害防止のための教育訓練（外国人対象：英語版）

定期開催時に受講できない放射性同位元素等取扱者などの受講者（約 100 名）が e ラーニングで受講できることを目指す。本コンテンツの特徴は以下の通りである。

- 講義をそのままコンテンツ化
- 映像コンテンツと小テストで構成

全 4 コンテンツについて、本年度中の公開を予定している。

7）オープンエデュケーション･コンソーシアムとの連携

オープンエデュケーション・コンソーシアムは、OCW の国際コンソーシアムである。本年度より名称変更を行い、オープンエデュケーションを推進する活動を行っている。

世界の 47 の国・地域から 250 近くの大学・機関がメンバーとして加盟しており、四半期ごとに開催される国際会議などで情報交換等を行っている。

8）日本オープンコースウエア・コンソーシアム（JOCW）との連携

日本オープンコースウェア・コンソーシアム（JOCW）は、我が国におけるオープンコースウェアの活動に関し、会員間での情報交換を行ない、その活動を援助し普及することを目的としている。

2014 年 12 月時点で、正会員（高等教育機関等）22、準会員（非営利団体等）3、賛助会員（営利団体等）10、特別賛助会員 2 の計 37 団体が加盟している。

北海道大学は、幹事校として参加しており、活動計画等について審議し、検討している。2015 年 1 月に開催された総会では、JOCW の今後のあり方について、JOCW のミッション、役割、望ましい組織体制を確認した。

9）大学学習資源コンソーシアム（CLR）との連携

大学学習資源コンソーシアム（CLR）は、電子的学習資源の制作、共有化を促進し、また学習・教育において著作物を最適に利用できる環境を整備するための検討を行い、具体化することを目的として、2014 年 4 月1日に設立された（「CLR 設立趣意書」より）。

本コンソーシアムに加盟することで、包括契約に参加できることになる。本年度は学術論文に関する包括契約の交渉を行っており、論文に利用する図表について著作権処理の負担が減ることが期待される。

10）MOOC 開講

上述のオープンエデュケーション・コンソーシアムは、MOOC コンソーシアムである「edX（http://www.edx.org）」において「OECx」というコンソーシアム加盟校のための MOOC チャンネルを有している。

2014 年春にオープンエデュケーション・コンソーシアムより、OCW ウェブサイトで公開している「環境放射能人材育成コース」を MOOC で公開することを依頼され、2015 年春に開講予定となった。このため、ACE で制作している MOOC 型コンテンツ「環境放射能基礎」をベースに英語化を図っている。講義は広く一般に公開され、開講期間は 4 週間であり、英語で行われる。

11）協定校とのオンライン教育システム構築にむけた取り組み

2014 年 10 月に北海道大学の協定校である北京科技大学、大連理工大学を訪問し、北海道大学が有するオープン教材を協定校で活用されるよう、説明を行った。将来的な単位認定や単位互換が伴うオンライン教育システムを視野に入れて対応を検討している。

12）CAS (Library of Chinese Academy of Science)からの OCW コンテンツ二次利用依頼

OCW ウェブサイトで配信しているコンテンツのうち、英語コンテンツかつ Science に関連するコンテンツである「Rock Engineering」、「Agriculture in Hokkaido」を CAS サイトから配信したいとの依頼を受けた。講義資料作成教員の承諾のもと、「Rock Engineering」は改版したものを提供することを検討している。

5. 北海道地区国立大学連携教育機構からの委託事業

北海道内の国立大学においては、平成 24 年度国立大学改革強化推進補助金「北海道内国立大学の機能強化について～北大を拠点とする連携体制の構築～」に採択され、北海道大学を中心とした教養教育連携実施事業を推進している。北海道内の国立大学7校が「国立大学教養教育コンソーシアム北海道」を結成し、各大学で実施される教養教育を双方向遠隔授業システムを通じ共有することにより、各大学の教養教育を充実させる取り組みを行っている。

オープンエデュケーションセンターは連携教育機構からの委託を受け、双方向遠隔授業システムの効果を高めるため、北海道内の国立大学で共通に用いることができるオープン教材（OER）を開発し、反転授業とアクティブラーニングを取り入れた遠隔授業を開発している。また、開発したオープン教材をMOOC用教材に用いて大学の国際化の推進や留学生の獲得にもつなげることを目指している。

オープン教材を共有するため、学内に教材配信用のウェブサーバとストリーミングサーバを設置し、オープン教材リポジトリ「Academic Commons for Education（ACE: http://ace.iic.hokudai.ac.jp ※要ログイン）」を構築している。

本取り組みで開発したオープン教材では、多くの教材は担当教員が映像に登場し、学習内容を示したスライドを使いながら講義を行う。学習内容の理解度を向上させるため、教員の要望に応じイラストを交えたものや、教員が板書の要領で説明するため、ペンタブレットを使いながらスライド中に手書きの図表を示しながら解説する教材も開発している。担当教員の要望を第一に優先し、それぞれの教員の教授スタイルを実現するためにいくつかの教材制作のパターンを提案しながらオープン教材を制作している。また今年度末には北海道大学と室蘭工業大学を接続し、オープン教材を用いた反転授業をモデル授業として実施する予定である。

現在オープン教材が制作された，または制作が進行中の授業科目は以下の通りである。

コース教材：応用倫理学入門、大学生のための情報社会入門、地球惑星科学、環境放射能基礎、化学 I

補助教材：制御工学 I

6. 広報活動

6.1 ブランディング

ブランディングとは、商品やサービスが作り出すイメージに一定の方向を持たせることで、組織全体に統一感を生み出し、競合との差別化をはかることである。

1. 他大学との差別化
   現在、日本の大学において「オープンエデュケーション」に特化したセンターを保持しているのは北海道大学のみである。その意味で、国内ではすでに差別化されている状態である。よって、「オープンエデュケーションセンター」の本質を正しく捉えたブランディングを行えば、北大の取り組みをより多くの人に知って頂けるとともに、他大学および教育の現場へアピールすることができる。

2. 「オープンエデュケーションセンター」の本質とは
   センターの本質は、現在進行形の「教育改善の現場」ということである。
   教育者と学習者の存在に支えられながら、教材開発・学習環境づくり等において教育者と学習者をサポートし続けることで、時代とともに自ら変化し、現在進行形の「教育改善」を推し進める「動的な存在」であるべきだと考えられる。

上記2点より、ブランディングコンセプト「青と黄でつくりだす緑」を設定した。青と黄を混色すると緑になる。つまり、緑は青と黄に支えられた「新しい価値」であると言える。この関係性が、学習者と教育者がデジタル教材などを通して相互に関わり合い、「教育改善」を進めるという関係性を象徴している。学習者＝知性を象徴する「青」、教育者＝論理を象徴する「黄」、北大（オープンエデュケーションセンター）＝青と黄を混色してできる「緑」、と規定し、これら3つを「テーマカラー」としてデザインを展開していくこととするすることで、デザインおよびイメージの統一化を図っていく。

6.2 ロゴ

ブランディングコンセプトを踏まえ、オープンエデュケーションセンターのロゴをデザインした。学習者と教育者の存在に支えられながら、学習者と教育者をサポートするOECを、青と黄を混ぜるとできあがる「緑（北大カラー）」で表現している。円は「集合」を意味するが、ベン図のように見えないようバランスを調整した。日の丸と似せることで、日本（北大）発信であることを印象づけられる。



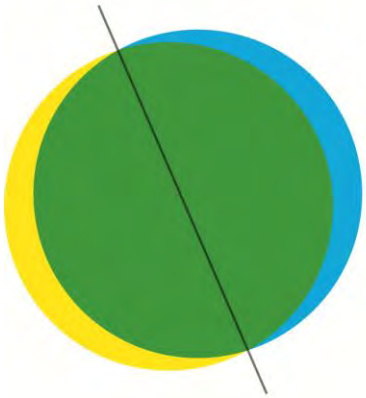




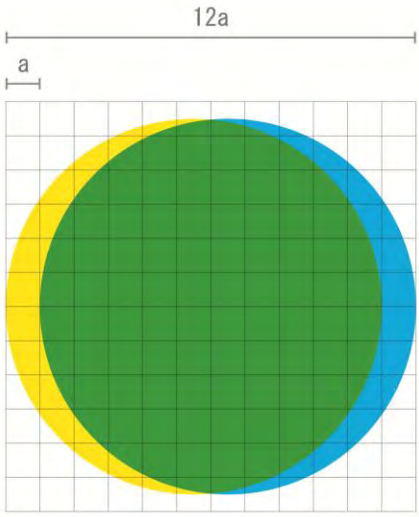


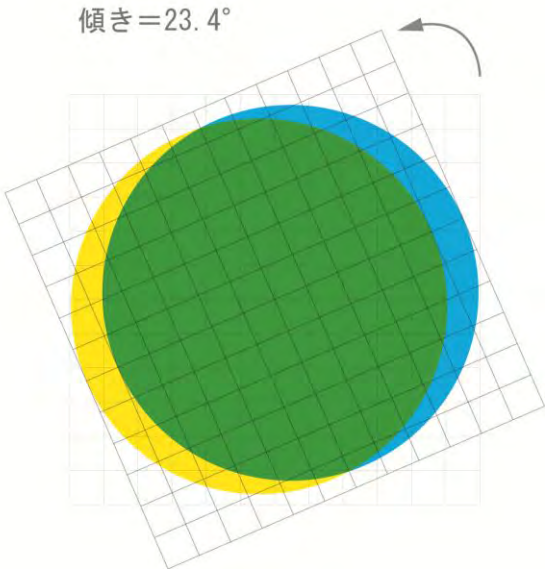
シンボルマークは、「地軸」と同じだけ傾いている。地軸の傾きと太陽の関係性によって、地球に生命が誕生した。とくに日本は、地軸のおかげで「四季」が存在し、歳時記などに見られるように、季節にまつわる言葉を多く生み出してきた。多様な文化を生み出す源が、地軸の傾きだったといえよう。そしてなにより、地軸はブレない。自転・公転をしながらも、地軸の傾きは一定である。地軸が動かないからこそ季節はめぐり、季節の循環が、地軸の不動を証明する。同様に、オープンエデュケーションセンターも、「北大の魅力を発信し、現在進行形の教育改善に努める」という確固とした一本の軸を「ブレない地軸」として持ち続けることで、ICT を活用した新しい試みにおける「変化」を楽しみ、新しい文化を創り出すことを目指している。

傾き＝23.4°



北海道大学
オープンエデュケーション
センター
CENTER FOR OPEN EDUCATION
HOKKAIDO UNIVERSITY



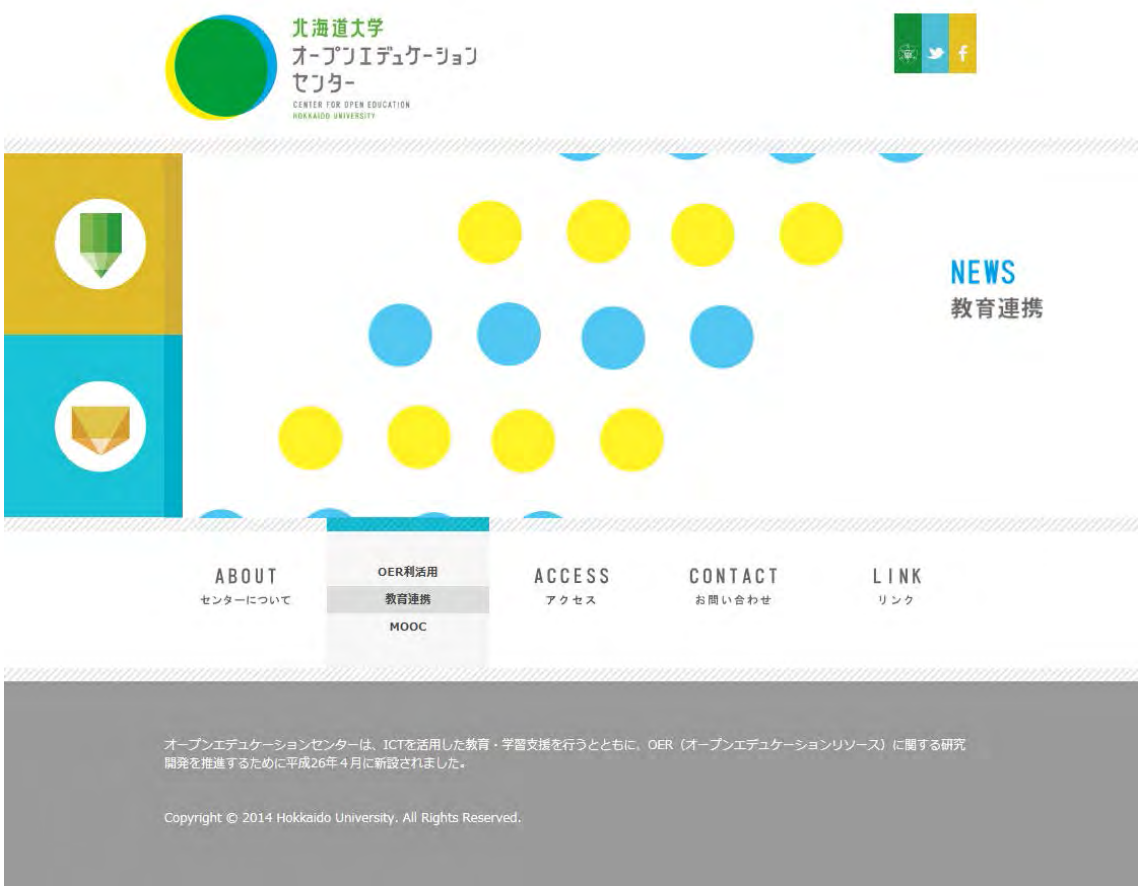


6.3 Web サイト

ブランディングコンセプトに基づき、「青と黄がつくりだす緑」をコンセプトに掲げてデザインしている。「学習者や教育者のためのデザイン」を意識し、サイト構築の方針を下記のように定めた。

1. 相互作用性
   訪問者が主体的にかかわっていけるよう、動的で相互作用性のあるユーザーインターフェイスデザインを心掛けている。ユーザーの一般的な Web 操作における振る舞いを検証し、気持ちのよい操作感や、気持ちの良いモーショングラフィックを用いることで、訪問者に「学び」の楽しさや「北大」の魅力を「体感」してもらいたいと考えている。

2. レスポンシブデザイン
   iPhone や PC など、様々な媒体を利用して、主体的に学習に励む方々をサポートするため、どんな媒体であってもサイトが崩れない「レスポンシブデザイン」を採用している。レスポンシブデザインとは、Web デザインの手法の一つで、様々な種類の機器や画面サイズに単一のファイルで対応する手法のことである。



7. 利用状況

7.1 OCW アクセス統計

7.1.1 アクセス統計（全体）

次頁にビジット数およびページビュー数の推移を示す。これらの値は情報基盤センター及び北京オフィスの Web サーバへのアクセスのほか、 iTunes U からのアクセスも含まれる。ビジット数およびページビュー数いずれも 2006 年に OCW ウェブサイトを公開してから、コンテンツ数の増加に伴い、順調にアクセス数が増加している。特に、2009 年に映像コンテンツを増やした後及び podcast 配信を開始した後にビジット数に急激な増加が見られる。また、2012 年 1 月に iTunes U からの配信を開始した後にアクセス数に急激な増加が見られる。

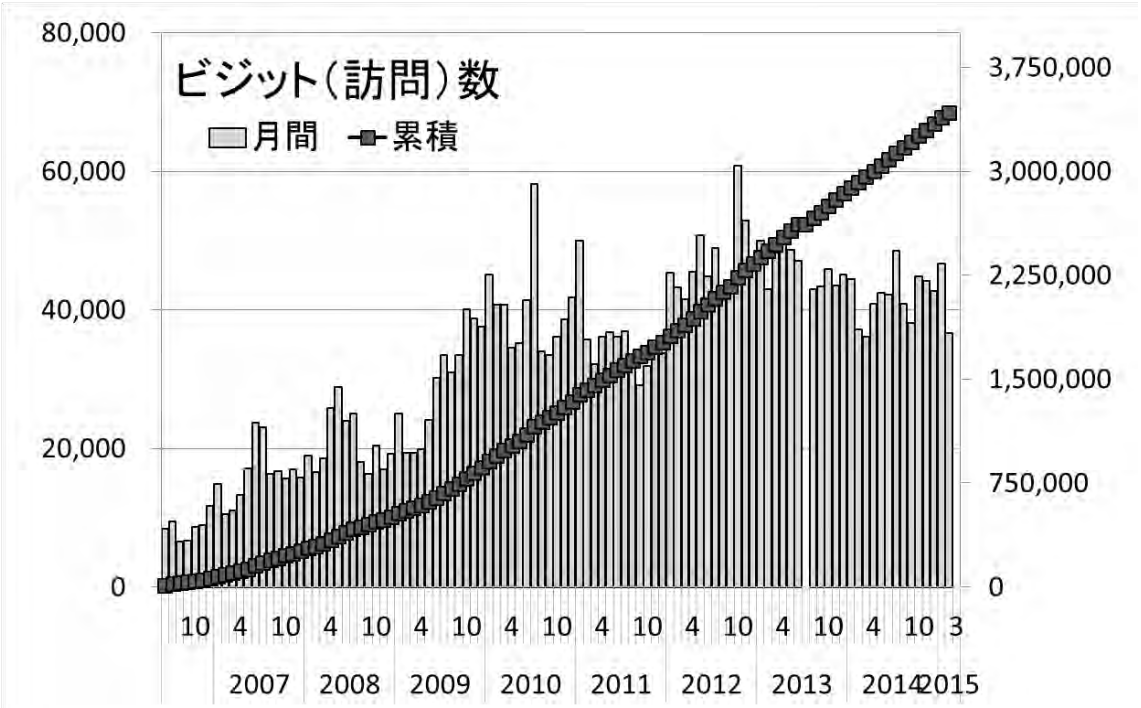
2014 年 4 月～2015 年 2 月の平均月間アクセス数は、ビジット数約 4.3 万、ページビュー数約 64 万である。2013 年度の平均月間アクセス数は、ビジット数約 4.4 万、ページビュー数約 62 万であるから、昨年比としてはそれぞれ 1.04 倍、0.97 倍となる。OCW ウェブサイト公開以来の累計は、2015 年 2 月末で、ビジット数約 343 万、ページビュー数約 3,137 万となっている。

7.1.2 アクセス統計（学内）

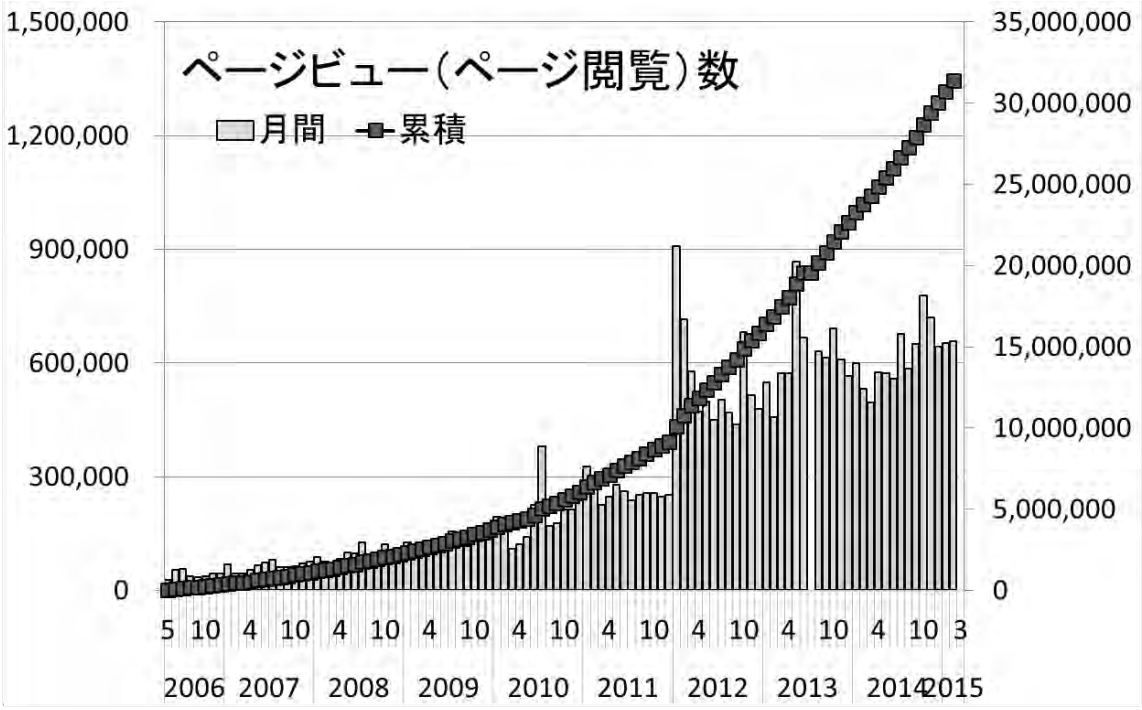
学内からの利用について、2014 年 4 月～2015 年 2 月の平均月間アクセス数は、ビジット数約 905、ページビュー数約 5.3 万である。2013 年度の平均月間アクセス数は、ビジット数約 914、ページビュー数約 5.4 万である。

7.1.3 アクセス統計（北京オフィス）

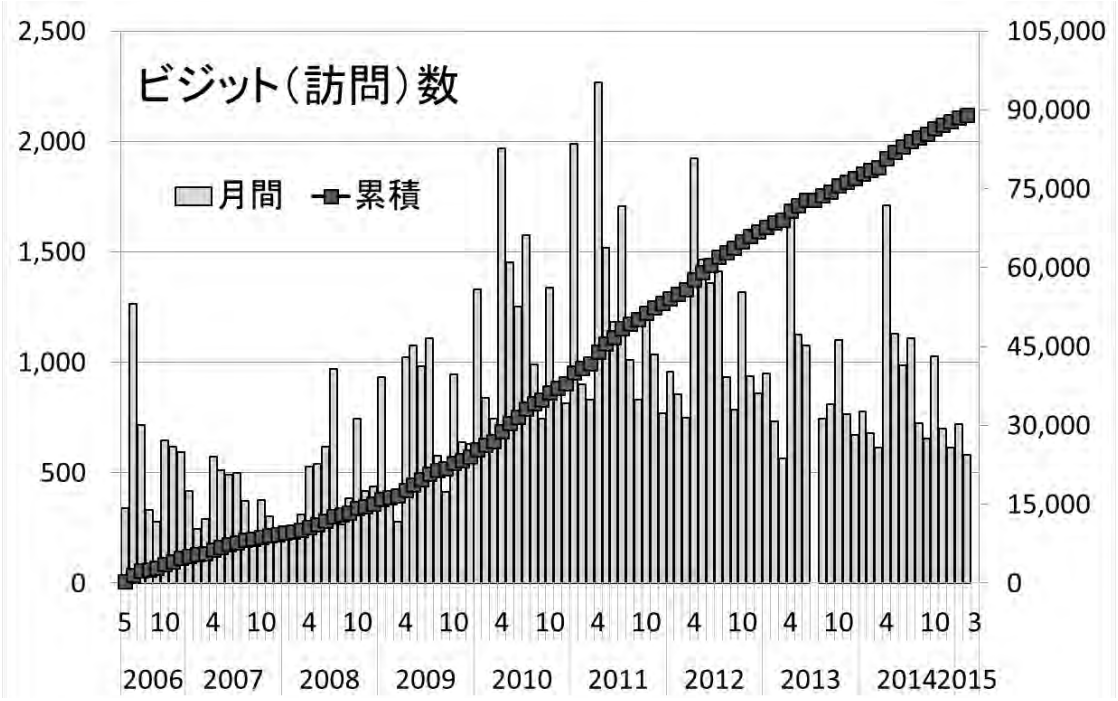
学内からの利用について、2014 年 4 月～2015 年 2 月の平均月間アクセス数は、ビジット数 5,228、ページビュー数約 1.2 万である。2013 年度の平均月間アクセス数は、ビジット数約 7,782、ページビュー数約 2.8 万である。



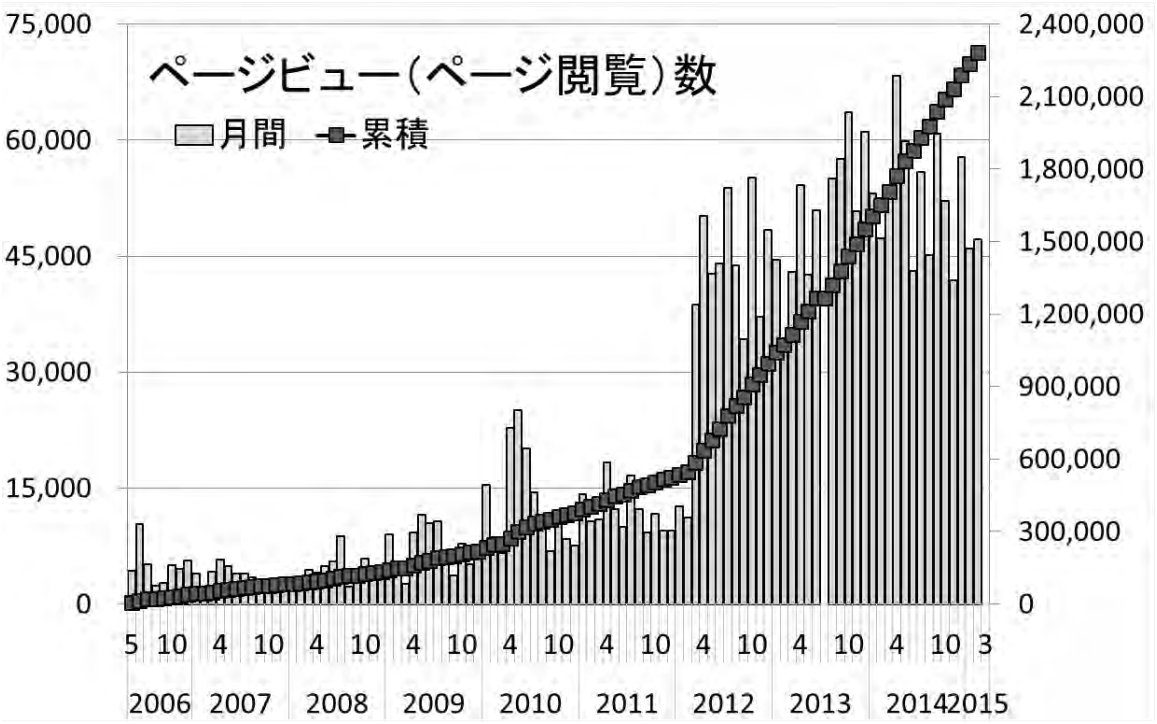
ビジット（訪問）数推移



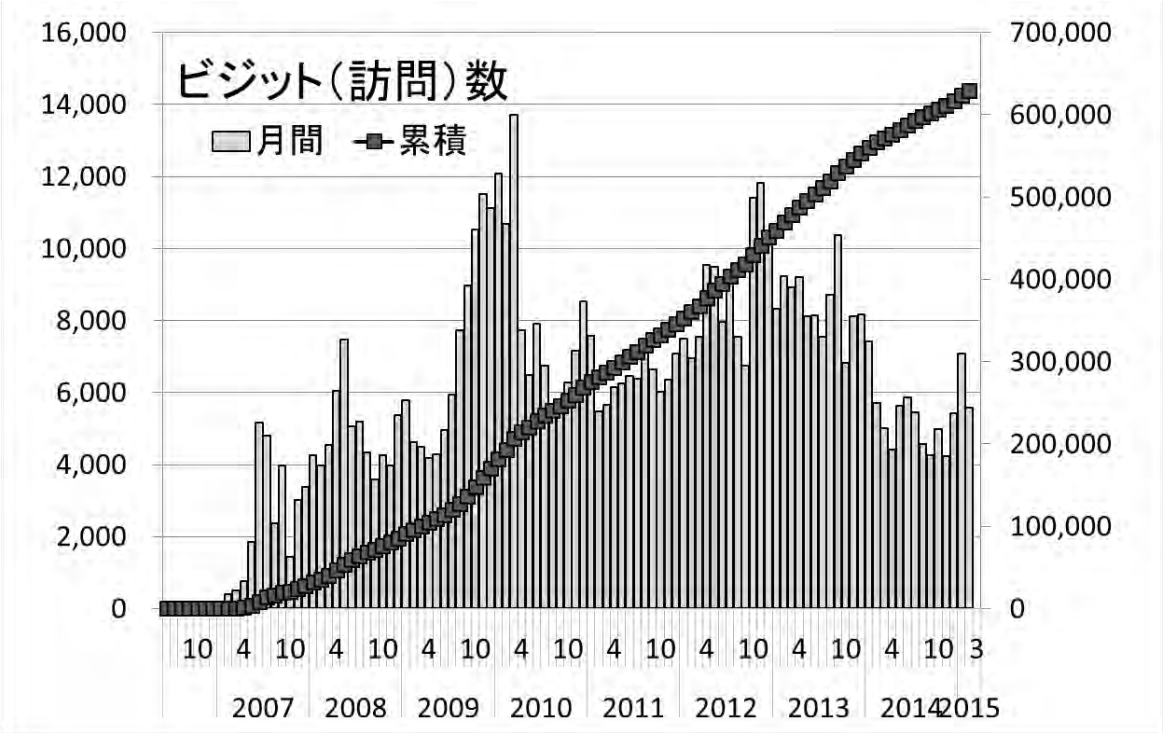
ページビュー数推移



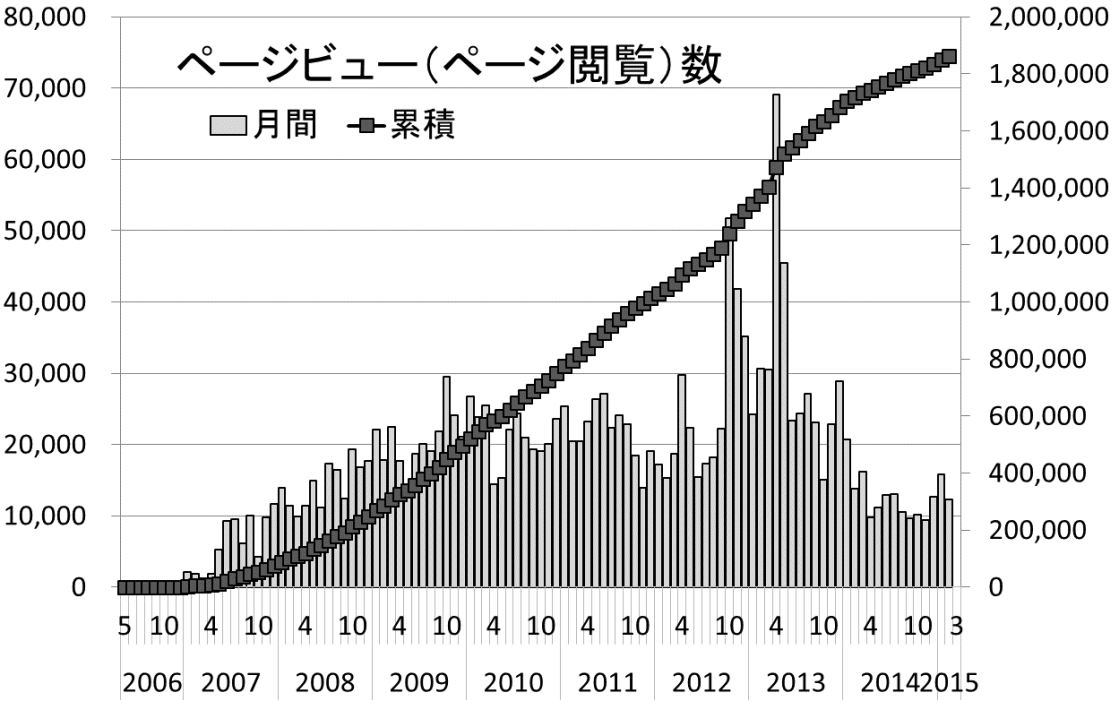
学内からの訪問数推移



学内からのページビュー数推移



北京サーバの訪問数推移



北京サーバのページビュー数推移

7.2 コンテンツの二次利用

本年度は、コンテンツの二次利用について 2 件問い合わせがあった。1 件は CAS (Library of Chinese Academy of Science)からであり、OCW ウェブサイトで配信しているコンテンツのうち、英語コンテンツかつ Science に関連するコンテンツである「Rock Engineering」、「Agriculture in Hokkaido」を CAS サイトから配信したいとの依頼であった。

もう 1 件は川崎医療福祉大学の教員より、「情報倫理小冊子」を二次利用したいとの問い合わせがあった。

8. まとめ

8.1 次年度の展開

オープンエデュケーションセンターの機能を拡充するため、組織を再編し、以下の任務を行う。

- ICT を活用した教育および学習支援
- 教育情報システムを用いた教育学習支援機能の整備充実および利用促進
- 科学技術コミュニケーション教育プログラムの実施および教育活動を通じた本学の広報･コミュニケーション活動への参画
- オープン化した教育資源に関する研究開発
- 科学技術コミュニケーション分野における人材養成、能力開発等に係る研究、科学技術コミュニケーションに関する総合的な教育研究

オープンエデュケーションセンターの運営組織である「オープンエデュケーション専門委員会」における審議事項は下記の通りとなる。

- OER を活用した教育及び学習支援の企画及び立案並びに実施に関すること
- 教育情報システムを用いた教育学習支援機能の整備充実等に関すること
- 科学技術コミュニケーション教育プログラムの実施、人材養成等に関すること
- その他本学の OER に係る研究開発の推進および科学技術コミュニケーションに係る教育研究に関すること

また、オープンエデュケーション専門委員会には、「デジタル教材開発専門部会」のほか、「教育情報システム専門部会」、「科学技術コミュニケーション教育研究専門部会」が設置され、それぞれ以下の事項が審議される。

- デジタル教材の開発、作成支援及び運用に関する事項
- 教育情報システムを用いた教育学習支援機能の整備充実および利用促進に関する事項
- 科学技術コミュニケーション教育プログラムの実施と研究に関する事項、および同教育研究を通じた本学の広報活動支援、教育コンテンツ作成支援に関する事項

8.2 まとめ

オープンエデュケーションセンターは、ICT を活用した教育及び学習支援を行うとともに、オープン化した教育資源（Open Educational Resource：OER）に関する研究開発を行うことを目的として、大学教育の改善・改革に関する取り組みの支援を機軸としながら、大学教育の魅力を国内外に発信することを目指す。

また、オープンエデュケーションセンターは、平成 27 年度から稼動する新たな教育情報システムを用いた教育学習支援機能の整備充実及び利用促進に関する業務も担当する。

さらに、高等教育研究部科学技術コミュニケーション教育研究部門（CoSTEP）を、平成 27 年 4 月にオープンエデュケーションセンターに統合することによって、科学技術コミュニケーション教育プログラムの実施及び教育活動を通じた本学の広報支援・科学技術コミュニケーション活動への参画を行う。

以上の活動を通じて、オープンエデュケーションセンターは、オープン化した教育資源に関する研究開発及び科学技術コミュニケーション分野における人材養成、能力開発等に係る研究、科学技術コミュニケーションに関する総合的な教育研究等を行う。

資料目次

I. OE センター説明会資料

II. 収録依頼書

III. 収録スケジュール／収録受付書一覧

IV. 広報資料

新入生リーフレット

教員向けパンフレット

「オープンエデュケーションセンター」設置構想について（抜粋）

Ⅰ．はじめに

ICT を活用した教育の推進は、今後の大学における教育改革にとって必須であり、学生の主体的な学習を促し、教育の質と量を保証するための有効な手段になるとともに、教育内容を広く社会に発信することで、社会的な信頼の獲得に大きく寄与することが期待される。

本学においては、これまで教務情報システムによる教育基本データの管理、教育情報システムを活用した教育・学習支援、CALL や Co-STEP による広い意味での e ラーニングの実施、及びオープンコースウェア（OCW）事業や附属図書館 HUSCAP 事業の展開など、広く OER（Open Educational Resource）活動に関わる取組を推進してきた。

しかしながら、これらはそれぞれの担当部局等の責任の下、活動が進められているため、取組の類似性や重複が見られる、または連携・協力が図られていないなどの問題点が指摘されてきた。そこで、全学的な統制の下、これらの連携を図りつつ OER 活動を進めるために、教育改革室において平成24年5月にオープンエデュケーションの在り方検討 WG を設置し、検討を開始した。その後、国立大学改革強化推進補助金による道内国立大学の教養教育連携実施事業が開始されたことから、同事業とも連携を図りつつ、全学的に OER を活用した教育・学習支援とその研究開発を推進する組織が必要であるとの結論に達し、以下のとおり高等教育推進機構 教育支援部 オープンエデュケーションセンター（以下「センター」という。）設置構想を取りまとめた。

Ⅱ．センター設置の目的及び任務

１ 目的

全学的な統制の下、OERを活用した教育・学習支援を行うとともに、道内国立大学の教養教育連携実施事業とも連携し、OERに関する研究開発を推進する。

２ 任務

（１）デジタル教材の開発・運用

これまでの OCW や e ラーニングの資産を引き継ぎつつも、OER を体系的に整備し、学生の主体的な学習の促進と授業改善に有機的に結びつけるとともに、教育コンテンツを積極的に学外に発信する。

（２）教育情報システムの充実及び利用促進

本学の教育・学習支援を担う教育情報システムについて、教育改革室と密接に連携・協力し、本学の教育改革に適切に対応すべく、コンテンツ及び機能等の充実を図る。

なお、教育情報システムは平成26年度末に更新が予定されており、現在、情報環境推進本部のガバナンスの下で、情報基盤センターにおいてその仕様が検討されている。

そのため、当面は、新たなシステムが本学の教育改革に適切かつ効果的に寄与できるよう、仕様策定委員会に参画することをもって本センターの任務とする。

Ⅲ．組織

（１）センター長

センターにセンター長を置き、本学の専任の教授をもって充てる。

（２）副センター長

センターの各機能に関してセンター長を補佐するため副センター長を置き、本学の専任の教授又は准教授をもって充てる。

（３）教職員

① 専任教員 准教授 1名
② 兼務教員 高等教育推進機構高等教育研究部教員 若干名
情報基盤センター教員 若干名
③ 特定専門職員 3名
④ 事務補助員又は技術補助員 3 名

Ⅳ．設置時期

平成 26 年 4 月 1 日

Ⅴ．今後の機能拡大の方向性

ICT を活用した教育コンテンツを戦略的・組織的に発信し、学生の主体的な学習と教員の授業改善を促す全学的な教育環境を整備するとともに、国際社会における本学の知名度向上と優秀な学生の獲得に資するため、大学広報の国際的な展開力強化を図る必要があることから、e ラーニング等の実績のある高等教育推進機構高等教育研究部科学技術コミュニケーション教育研究部門（Co-STEP）との連携を強化するとともに、平成27年4月に同部門と統合すべく準備を進める。

また、外国語教育センターが担っている CALL については、GI-CoRE 設置構想や教育改革室外国語教育の在り方検討 WG での議論を踏まえ、外国語教育センターとも協議し、必要に応じて今後検討することとする。また、HUSCUP 事業を展開する附属図書館とは、今後も連携・協力を図ることとする。

オープンエデュケーションセンターの取り組み事例

重田　勝介
北海道大学　情報基盤センター　准教授
高等教育推進機構教育支援部
オープンエデュケーションセンター　副センター長

2014/7/9 オープンエデュケーションセンター説明会

あらまし

- オープンエデュケーションセンターの取り組み事例を紹介
- 道内国立大学教養教育連携
  - オープン教材(OER)とモデル授業
  - ポータルサイトの開発
- MOOC開講
  - MOOCコンソーシアム「edX」への加入

OERとは、MOOCとは

- OER：オープン教材
  (Open Educational Resources)
  - インターネット上で公開される教材・教育素材
  - オープンコースウェア(OCW)もその一つ
- MOOC：大規模公開オンライン講座
  (Massive Open Online Course)
  - オープン教材を用いたeラーニングを実施
  - 一般向けに数万人の受講者を募る
  - 履修管理を行う（達成度を測るテスト）
  - 一定レベルに達した受講者に認定証を発行

道内国立大学教養教育連携

オープン教材(OER)とモデル授業
ポータルサイトの開発

道内6大学の特色を活かした教育の可能性

- 多様で豊かな教養教育を実現
  - 各大学の幅広い専門性をもとに科目を開発
  - 大学を越えて教育内容やカリキュラムを共有
- 大学連携によるメリット享受
  - 幅広い学びの選択肢を学生に与える
  - 分野横断的・俯瞰的な教養教育科目を実施
- 教材制作による教育の質向上
  - 大学間で教育内容・方法・ノウハウを共有する
  - 教材・授業改善によるFDの効果

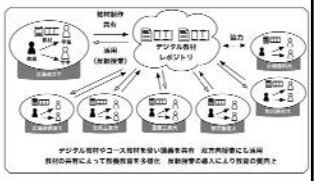
双方向遠隔授業システムの効果向上

- 一斉講義の「延長」ではない教育方法の導入
  - 各大学でOERを使った予習（反転学習）
  - アクティブラーニングの導入による学習効果向上
  - 遠隔授業システムを補完



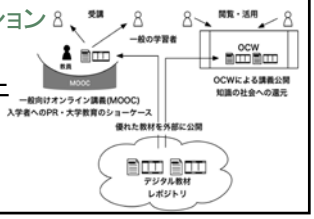
取り組み（1）
OERの開発・共有による教育改善

- OERの開発
  - 授業利用を前提としたオープン教材
  - 応用倫理学/環境放射能基礎/
  - 地球惑星科学/情報社会
- 教育方法の開発
  - オープン教材を用いたモデル授業
  - 反転授業とアクティブラーニングを実施



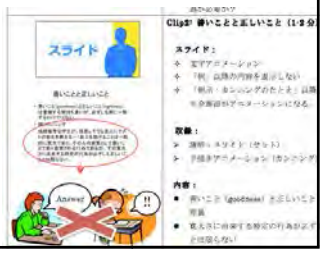
取り組み（2）
MOOC実施による「北大の教育」の発信

- 優れたオープン教材の公開
  - 開かれた教育環境の実現　大学の「知」の公開
  - 英語教材の公開による国際化の推進（留学生獲得へ）
- オープンエデュケーションによる教育改革
  - 教育の多様化・質向上
  - 大学教育の魅力発信



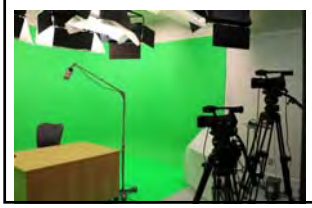
オープン教材の企画設計

- 「MOOC型」のオープン教材
  - テーマごとの短いビデオ教材＋知識確認のテスト
  - インストラクショナルデザインに基づいた構造化
- 授業利用を前提
  - 反転授業の予習教材として用いる前提で設計
  - 学生のレベルに応じた補助教材にも



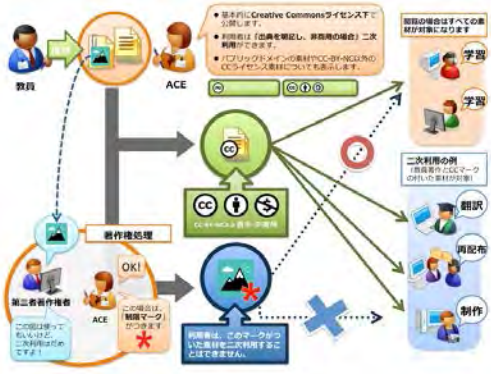
オープン教材の制作

- スタジオ収録（講義取りっぱなしではない）
- TAの補助
  - 教育内容に詳しい大学院生
- 映像制作に長けた専門職員が収録・編集





コンテンツの再利用を促す著作権処理



オープン教材リポジトリの構築

- Academic For Education (ACE)
- オープンソースソフトウェアOpen edXをベースにしたプラットフォーム



http://ace.iic.hokudai.ac.jp/（教材視聴にはログインが必要）

MOOC開講

MOOCコンソーシアム「edX」への加入

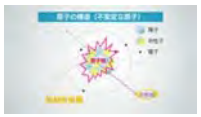
取り組み（3）edX参加
「北大の教育」を国際発信

北海道大学 ＋ OPEN EDUCATION CONSORTIUM ⇒ edX



- edXの「OECx」チャンネルで開講
  - オープンエデュケーション・コンソーシアム（旧OCWコンソーシアム）による
  - 世界5カ国の大学が参加　北大は2015年春から

環境放射能基礎
Introduction to Radioactivity and Radiation


- 環境中の放射能について学ぶ
  - 放射線の基礎知識
  - 環境・食品等に与える影響
  - 放射線の計測方法
  - 放射線の応用（医学・原子炉）
- 道内教養教育連携で制作した教材を英語化
  - 字幕または吹き替え
- 開講期間は4週間

OCW教材をもととしたMOOC制作

- 環境放射能基礎コース（初級コース）
- オープンエデュケーション コンソーシアムから 依頼を受け開講
- MOOC用に教材を再設計
  - スタジオ収録で撮り直し
- クイズとテストの作成
- MOOC運営体制の確立



北海道大学オープンコースウェア

オープンエデュケーションセンターの取り組み事例

重田　勝介
北海道大学　情報基盤センター　准教授
高等教育推進機構教育支援部
オープンエデュケーションセンター　副センター長

2014/7/9 オープンエデュケーションセンター説明会

オープンエデュケーションセンター
収録・配信申込書

申込日：　　年　　月　　日

企画名	
主催部局	
ご担当者名	

概要・目的・想定する対象／講義における再利用形態

収録関連情報	
日程	
場所	
参加者発言機会	有　・　無　（　　）
第三者著作物	有　・　無　（　　）

配信関連情報	
総コンテンツ数	コンテンツ
配信対象	映像コンテンツ その他（　　）
配信開始時期	年　月　日～
公開範囲	一般公開（OCW）
利用条件	CC BY-NC（二次利用可）　・　使用制限資料（閲覧のみ）　・　その他 （　　）
再利用条件	学内利用　・　その他 （　　）

担当事項	
講師ご担当事項	講演情報　・　講演資料 その他（　　）
OEC 担当事項	収録　・　編集　・　著作権処理　・　その他（　　）

その他

オープンエデュケーションセンター
収録・配信申込書（講義）

申込日：　　年　　月　　日

講義名	
講師名	

概要・目的・想定する対象／講義における利用形態

講義情報	
開講部局等	
シラバスコード	

収録関連情報	
日程	
場所	
講義形式	講義　・　演習　・　実験
学生発言機会	有　・　無
第三者著作物	有　・　無

E-learning 実施計画	
総コンテンツ数	コンテンツ
配信対象	映像コンテンツ その他（　　）
履修管理	要　・　不要
配信開始時期	年　月　日～
公開範囲	履修者限定　・　学内限定　・　一般公開　・　協定機関まで　・　その他 （　　）
利用条件	CC BY-NC（二次利用可）　・　使用制限資料（閲覧のみ）　・　その他 （　　）
再利用条件	学内利用　・　その他 （　　）

担当事項	
講師担当事項	シラバス情報　・　講義資料　・　受講確認課題 その他（　　）
OEC 担当事項	収録　・　編集　・　著作権処理　・　その他（　　）

その他

収録・受領スケジュール（上段：開催日等、下段：コンテンツ数）

講義名等	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
【Mooc】環境放射能基礎													
【eラーニング】放射線障害防止のための教育訓練（英）								4（火）					
							→	4	→	→	→	→	4
【eラーニング】放射線障害防止のための教育訓練（日）									2	→	7	→	9
【eラーニング】PARE Program Summer School						11（木）							
						1	→	→	→	→	→		1
【eラーニング】PARE Programm PV													
									1	→	→	→	1
【eラーニング】大学院共通科目 PARE基礎論Ⅲ										9, 16			
										2	→	→	2
【eラーニング】がんプロ「医学統計」													
									→	3			3
【教材】全学教育科目 英語Ⅰ	（水）	（水）	（水）	（水）	（水）	（水）							
	2	2	3	3	3	2	→	→					15
【教材】全学教育科目 英語Ⅰ 字幕化													
									15	→	→	→	15
【教材】現代日本学プログラム An Introduction to Study Skills & Modern Japan				1, 15, 22, 29									
				5	→	→	→	→	→	→	→	→	5
【講義】文学部専門科目・HUSTEP科目 英語学・国際交流	（木）	（木）	（木）	（木）									
	3	5	3	4	→	→	→	→	→	→	→	→	15
【講義】全学教育科目 英語演習							（水1）	（水1）	（水1）	（水1）			
							5	4	4	2	→	→	15
【講義】文学部専門科目・HUSTEP科目 英米文学										21, 28			
										6			6
【講義】全学教育科目 言葉を科学する							16日1講						
							1	→	→	→	→	14 →	15
【講義】全学教育科目 学びのユニバーサルデザイン							（木2）						
							1	→	→	→	→	→	1
【eラーニング化セミナー】 実践的原子力バックエンド基礎教育								8, 9					
								9	→	→	→	→	9
【eラーニング化セミナー】 実践的原子力バックエンド専門教育									6, 7				
									8	→	→	→	8
【eラーニング化セミナー】 実践的原子力バックエンド国際教育											28（土）	1（日）	
											4	2	6
【講義活用セミナー】博物館土曜市民セミナー						第二土曜							
						1	→	→	→	→	→	→	1
【講義活用セミナー】バイオミメティクス市民セミナー											第一土曜		
							→	→	→	→	1	→	1
【講義活用セミナー】最終講義												12（木）	
							→	→	→	→	→	1	1
【セミナー】サステイナブルキャンパス国際シンポ								25（火）					
							→	3	→	→	→	→	3
【セミナー】人文学カフェ					6(水)								
					1	→	→	→	→	→	→	→	1
【セミナー】時計台サロン	23(水)		25(水)										
	2	→	2	→	→	→	→	→	→	→	→	→	4
【セミナー】博物館土曜市民セミナー	第二土曜	第二土曜		第二土曜									
	1	1	→	1	→	→	→	→	→	→	→	→	3
【セミナー】バイオミメティクス市民セミナー	第一土曜	第一土曜											
	1	1	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	2
【セミナー】北海道大学公開講座				17（木）									
			→	1	→	→	→	→	→	→	→	→	1
収録・コンテンツ数（予定含）	9	9	8	14	4	4	7	20	30	13	12	17	147
公開済コンテンツ（3月公開予定含）													

オープンエデュケーションセンター
収録受付書（教材）

受付日： 2014 年 7 月 9 日
更新日： 2014 年 11 月 11 日

講義名	放射線障害防止のための教育訓練（外国人対象：英語版）
担当者名	稲波 修（放射線同位元素等管理委員会委員長、獣医学研究科教授）

概要／目的／想定する対象・利用形態
総長主催の教育訓練。法令に従い所定の時間の受講を要する。 約 1000 人／年の受講者に対応するのが困難なため、教材化・教育コース化をはかり、電子教材で受講できるようにする。対象者は次のどれかに該当する者のうち、定期開催時に受講できない者（約 100 名程度／年）。 ① 放射性同位元素等取扱者として新規に登録を希望する者 ② 放射性同位元素等取扱者のうち登録更新を希望する者 ③ エックス線取扱者として新規に登録を希望する者 ④ エックス線取扱者のうち登録更新を希望する者

講義情報	
開講部局等	放射線同位元素等管理委員会

収録関連情報	
収録	(有) ・ 無
日時	2014 年 11 月 4 日 9:00~12:35
場所	アイソトープ総合センター 5 階 講義室
第三者著作物	(有) ・ 無

E-learning 実施計画	
総コンテンツ数	4 コンテンツ
配信対象	~~映像コンテンツ~~ (その他)（ スライド PDF ）
履修管理	(要) ・ 不要
配信開始時期	2015 年 4 月 1 日
公開範囲	(履修者限定) ・ 学内限定 ・ 一般公開（OCW） その他（ ）
利用条件	CC BY-NC（二次利用可） ・ (使用制限資料)（閲覧のみ）
再利用条件	学内利用 その他（ ）

担当事項	
講師担当事項	シラバス情報 ・ (講義資料) ・ (受講確認テスト) その他（ ）
OEC 担当事項	(収録) ・ (編集) ・ (著作権処理) ・ その他（ ）

その他
大学等放射線施設協議会が作成した資料に基づいて講義。 履修者限定であれば活用して差し支えないことを内諾済み（北大として申請が必要）。 スライドカメラ映像は、スライドに差替えること

オープンエデュケーションセンター
収録受付書（教材）

受付日：　2014　年 7 月 9 日

講義名	放射線障害防止のための教育訓練（日本語版）
担当者名	稲波 修（放射性同位元素等管理委員会委員長、獣医学研究科教授）

概要／目的／想定する対象・利用形態
総長主催の教育訓練。法令に従い所定の時間の受講を要する。 約 1000 人／年の受講者に対応するのが困難なため、教材化・教育コース化をはかり、電子教材で受講できるようにする。対象者は次のどれかに該当する者のうち、定期開催時に受講できない者（約 100 名程度／年）。 ① 放射性同位元素等取扱者として新規に登録を希望する者 ② 放射性同位元素等取扱者のうち登録更新を希望する者 ③ エックス線取扱者として新規に登録を希望する者 ④ エックス線取扱者のうち登録更新を希望する者

講義情報	
開講部局等	放射性同位元素等管理委員会

収録関連情報	
収録	(有) ・ 無
日時	2015 年 4 月
場所	アイソトープ総合センター
第三者著作物	(有) ・ 無

E-learning 実施計画	
総コンテンツ数	9 コンテンツ
配信対象	(映像コンテンツ) その他（　　）
履修管理	(要) ・ 不要
配信開始時期	2015 年 4 月以降なるべく早く
公開範囲	履修者限定 ・ 学内限定 ・ (一般公開（OCW）) その他（　　）
利用条件	CC BY-NC（二次利用可） ・ (使用制限資料（閲覧のみ）)
再利用条件	学内利用 (その他)　獣医学部、工学部の講義で一部再利用予定

担当事項	
講師担当事項	シラバス情報 ・ (講義資料) ・ (受講確認テスト) その他（　　）
OEC 担当事項	(収録) ・ (編集) ・ (著作権処理) ・ その他（　　）

その他
資料は担当講師が作成。著作権処理のため、開催 2~3 ヶ月前には資料提供予定 スライドカメラ映像は、スライドに差替えること

オープンエデュケーションセンター
収録受付書（教材）

受付日： 2014 年 9 月 2 日

講義名	PARE program summer school
担当者名	小林　幸徳（大学院工学研究院　教授） 渡部　真央（国際本部　国際連携課）

概要・目的・想定する対象／利用形態
「人口・活動・資源・環境の負の連環を転換させるフロンティア人材育成プログラム（PARE プログラム）」で開講している「summer school」を素材とし、OE センターにおけるトライアル配信および PARE プログラム広報素材として活用する。

講義情報	
開講部局等	PARE Central Office (Office of International Affairs)
シラバスコード	

収録関連情報	
収録	(有) ・ 無
日程	2014 年 9 月 11 日
場所	情報教育館 3F　多目的中講義室
第三者著作物	(有) ・ 無

E-learning 実施計画	
総コンテンツ数	8 コンテンツ　(配信は 2 コンテンツ予定)
配信対象	(映像コンテンツ) その他（　　）
履修管理	(要) ・ 不要
配信開始時期	2015 年 1 月 末日～
公開範囲	(履修者限定) ・ 学内限定 ・ 一般公開（OCW） その他（　　）
利用条件	CC BY-NC（二次利用可） ・(使用制限資料（閲覧のみ)) ・ その他 （　　）
再利用条件	学内利用 ・(その他) （ PARE プログラム関連による利用　　）

担当事項	
講師担当事項	(シラバス情報) ・ (講義資料) ・ 受講確認課題 その他（ 学生承諾書、学生への問合せ窓口 ）
OEC 担当事項	収録 ・ (編集) ・ (著作権処理) ・ その他（　　）

その他

オープンエデュケーションセンター
収録受付書（教材）

受付日：　2014　年 12 月 22 日

講義名	大学院共通科目「PARE 基礎論Ⅲ」
講師名	藤田　修（大学院工学研究院　教授） 五十嵐　敏文（大学院工学研究院　教授）

概要・目的・想定する対象／利用形態
「人口・活動・資源・環境の負の連環を転換させるフロンティア人材育成プログラム（PARE プログラム）」で開講している「PARE 基礎論Ⅲ」を素材とし、OE センターにおけるトライアル配信および PARE プログラム広報素材として活用する。

講義情報	
開講部局等	大学院共通授業科目 PARE Central Office (Office of International Affairs)
シラバスコード	IGS 5501

収録関連情報	
収録	(有)　・　無
日程	2015 年 1 月 9 日、16 日 18:15-19:45
場所	国際本部
第三者著作物	(有)　・　無

E-learning 実施計画	
総コンテンツ数	2 コンテンツ
配信対象	(映像コンテンツ) その他（　　）
履修管理	(要)　・　不要
配信開始時期	2015 年 3 月 末日～　(2 月末日～希望)
公開範囲	履修者限定　・　学内限定　・(協定機関まで)・　一般公開（OCW） その他（　　）
利用条件	(CC BY-NC（二次利用可）)・(使用制限資料（閲覧のみ）)・その他 （　　）
再利用条件	学内利用　・(その他) （　PARE プログラム関連による利用　　）

担当事項	
講師担当事項	(シラバス情報)・(講義資料)・　受講確認課題 その他（　　）
OEC 担当事項	(収録)・(編集)・(著作権処理)・　その他（　　）

その他
利用条件について、藤田先生は赤字、五十嵐先生は黒字で記載

オープンエデュケーションセンター
収録受付書（教材）

受付日： 2014 年 7 月 16 日

講義名	英語 I
担当者名	奥　聡（e1 Online Material Team、メディア・コミュニケーション研究院　准教授）

概要・目的・想定する対象／利用形態
全学教育科目「英語 I」向けの教材開発を行い、開発教材を OCW で活用する。

講義情報	
開講部局等	全学教育（e1 Online Material Team）
シラバスコード	

収録関連情報	
収録	(有) ・ 無
日程	2014 年 4 月～9 月
場所	メディア・コミュニケーション研究院　スタジオ型演習室
第三者著作物	(有) ・ 無

E-learning 実施計画	
総コンテンツ数	15　コンテンツ
配信対象	(映像コンテンツ) その他（　　）
履修管理	要 ・ (不要)
配信開始時期	2014 年 12 月中旬～　（実運用は 2015 年 4 月～）
公開範囲	履修者限定 ・ 学内限定 ・ (一般公開（OCW）) その他（　　）
利用条件	CC BY-NC（二次利用可） ・(使用制限資料（閲覧のみ）)・ その他 （　　）
再利用条件	学内利用・ その他 （　　）

担当事項	
講師担当事項	シラバス情報 ・(講義資料)・ 受講確認課題 その他（　　）
OEC 担当事項	(収録)・(編集)・(著作権処理)・(その他)（ DVD 作成　　）

その他
Unit1-5：8 月中旬試作ページ、Unit6-10：9 月中旬試作ページ、Unit11-15：10 月中旬試作ページ DVD でも配布希望、メディアは e1 Online Material Team 予算で購入

オープンエデュケーションセンター
収録受付書（教材）

受付日： 2014 年 7 月 15 日

講義名	現代日本学プログラム(MJSP: Modern Japanese Studies Program) Foundation Course
担当者名	Dr. Philip Seaton (Office of International Affairs)

概要・目的・想定する対象／利用形態
現代日本学プログラム（外国人留学生を対象とした 4 年間の新しい学士課程プログラム）の Foundation Course（予備課程、10 月～開講、道内連携事業の Foundation Course も共通）向けの教材開発を行い、開発教材を全学教育英語 II、OCW で活用する。レポートを書く時の参考にさせるなど補助教材として利用する。

講義情報	
開講部局等	国際本部 現代日本学プログラム
シラバスコード	

収録関連情報	
収録	(有) ・ 無
日程	2014 年 7 月 1 日、15 日、22 日
場所	メディア・コミュニケーション研究院 スタジオ型演習室
第三者著作物	(有) ・ 無

E-learning 実施計画	
総コンテンツ数	5 コンテンツ
配信対象	(映像コンテンツ) (その他)（ Script、確認クイズ ）
履修管理	要 ・ (不要)
配信開始時期	2014 年 10 月 1 日～
公開範囲	履修者限定 ・ 学内限定 ・ (一般公開（OCW)） その他（ ）
利用条件	CC BY-NC（二次利用可） ・ (使用制限資料（閲覧のみ)) ・ その他 （先生としては二次利用可だが、音源等の素材の制約により閲覧のみ／改変禁止 ）
再利用条件	(学内利用)・ その他 （ 他の先生が講義で使用するのも OK ）

担当事項	
講師担当事項	シラバス情報 ・ (講義資料) ・ 受講確認課題 その他（ ）
OEC 担当事項	(収録)・(編集)・(著作権処理) ・ その他（ ）

その他
その他 4 シリーズについては、10 月以降に検討

オープンエデュケーションセンター
収録受付書（講義）

受付日： 2014 年 7 月 16 日

講義名	文学部専門科目　英語学：生成文法の研究（1） HUSTEP 科目　国際交流　The Real Story of Child Language Acquisition
担当者名	奥　聡（北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院　准教授）

概要・目的・想定する対象／利用形態
文学部専門／HUSTEP 科目 英語学／国際交流を収録し、OCW から配信する。

講義情報	
開講部局等	文学部／HUSTEP
シラバスコード	

収録関連情報	
日程	2014 年度前期
場所	人文・社会科学総合教育研究棟
講義形式	(講義)・ 演習 ・ 実験
学生発言機会	(有) ・ 無
肖像権処理希望	(有) ・ 無　(参加学生には別途承諾書をとる)
第三者著作物	(有) ・ 無

E-learning 実施計画	
総コンテンツ数	15　コンテンツ
配信対象	(映像コンテンツ) (その他)（　Hand-out　）
履修管理	要 ・(不要)
配信開始時期	2015 年 3 月～
公開範囲	履修者限定 ・ 学内限定 ・(一般公開（OCW）) その他（　）
利用条件	CC BY-NC（二次利用可） ・(使用制限資料（閲覧のみ）)・ その他 （　）
再利用条件	学内利用 ・ その他 （　）

担当事項	
講師担当事項	シラバス情報 ・(講義資料)・ 受講確認課題 その他（　）
OEC 担当事項	(収録)・(編集)・(著作権処理)・ その他（　）

その他

オープンエデュケーションセンター
収録受付書（講義）

受付日： 2014 年 9 月 26 日

講義名	全学教育科目　英語演習［English Seminar］ 中級：言語音声を信号処理ソフトウェアを用いて分析する　–毎週英語で実習し発表する
担当者名	河合　剛（北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院　准教授）

概要・目的・想定する対象／利用形態
全学教育科目　英語演習を収録し、OCW から配信する。 履修制限により受講できなかった学生の自習、来年度受講学生の予習・復習等に活用するよう、シラバスに記載し、視聴を促す。

講義情報	
開講部局等	全学教育
シラバスコード	

収録関連情報	
日程	2014 年度後期
場所	屋内運動場
講義形式	（講義）・（演習）・　実験
学生発言機会	（有）・　無
肖像権処理希望	（有）・　無　（参加学生には別途承諾書をとる）
第三者著作物	（有）・　無

E-learning 実施計画	
総コンテンツ数	15　コンテンツ
配信対象	（映像コンテンツ） （その他）（　スライド PPT、Hand-out　）
履修管理	要　・（不要）
配信開始時期	2015 年 4 月～
公開範囲	履修者限定　・　学内限定　・（一般公開（OCW）） その他（　）
利用条件	CC BY-NC（二次利用可）　・（使用制限資料（閲覧のみ））・ その他 （　）
再利用条件	学内利用　・　その他 （　）

担当事項	
講師担当事項	シラバス情報　・（講義資料）・　受講確認課題 その他（　）
OEC 担当事項	（収録）・（編集）・（著作権処理）・　その他（　）

その他

オープンエデュケーションセンター
収録受付書（講義）

受付日：　2014 年 12 月 10 日

講義名	文学部専門科目「英米文学」 HUSTEP 科目「Sustainability Studies in Hollywood Films」
講師名	瀬名波栄潤（北海道大学大学院大学院文学研究科）

概要・目的・想定する対象／利用形態
文学部提供科目「英米文学」と HUSTEP 科目の重複開講科目である「Sustainability Studies in Hollywood Films」のプロジェクト最終発表の模様を録画し、持続可能な社会構築のための方策を本学の外国人学生を交えた視点から、社会に向けて発信する。また、この内容は次年度以降の同授業でも紹介し、より質の高いプロジェクトの立案と遂行に役立てる。

講義情報	
開講部局等	文学部、HUSTEP
シラバスコード	

収録関連情報	
日程	2015 年 1 月 21 日（木）と同月 28 日（木）の午後 2 時 45 分～4 時 15 分
場所	人文社会棟 W５１７室
講義形式	講義　・　(演習)　・　実験
学生発言機会	(有)　・　無
肖像権処理希望	(有)　・　無　（参加学生には別途承諾を得る）
第三者著作物	(有)　・　無

E-learning 実施計画	
総コンテンツ数	6　コンテンツ
配信対象	(映像コンテンツ) その他（　　）
履修管理	要　・　(不要)
配信開始時期	2015 年 6 月 1 日～
公開範囲	履修者限定　・　学内限定　・　(一般公開（OCW）)　・　その他
利用条件	CC BY-NC（二次利用可）　・　(使用制限資料（閲覧のみ）)　・　その他 （　　）
再利用条件	(学内利用)　・　その他

担当事項	
講師担当事項	(シラバス情報)・(講義資料)　・　受講確認課題 その他（　　）
OE センター 担当事項	(収録)・(編集)・(著作権処理)　・　その他（　　）

その他

オープンエデュケーションセンター
収録受付書（講義）

受付日：　2014 年 10 月 1 日

講義名	全学教育科目　思索と言語［Thoughts and Languages］ ことばを科学する：人間の再発見
担当者名	奥　聡（北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院　准教授）

概要・目的・想定する対象／利用形態
全学教育科目「ことばを科学する：人間の再発見」を収録し、OCW から配信する。 受講学生からの質問・意見に回答する「ちょっとだけ Feedback」を公開し、2015 年度「一般教育演習」における反転学習用教材として活用する。

講義情報	
開講部局等	全学教育
シラバスコード	

収録関連情報	
日程	2014 年度後期
場所	高等教育推進機構 N2
講義形式	(講義)・　演習　・　実験
学生発言機会	(有)　・　無
肖像権処理希望	(有)　・　無
第三者著作物	(有)　・　無

E-learning 実施計画	
総コンテンツ数	1　コンテンツ（映像コンテンツ）
配信対象	(映像コンテンツ) (その他)（　「ちょっとだけ Feedback」（PDF）　）
履修管理	要　・(不要)
配信開始時期	2015 年 4 月～
公開範囲	履修者限定　・　学内限定　・(一般公開（OCW）) その他（　）
利用条件	CC BY-NC（二次利用可）　・(使用制限資料（閲覧のみ）)・ その他 （　）
再利用条件	学内利用　・　その他 （　）

担当事項	
講師担当事項	(シラバス情報)・(講義資料)・　受講確認課題 その他（　）
OEC 担当事項	(収録)・(編集)・(著作権処理)・　その他（　）

その他
2014/10/16 は収録のみ、編集等公開作業は 2014 年度末に行う。

オープンエデュケーションセンター
収録受付書（講義）

受付日：　2014 年 9 月 26 日

講義名	全学教育科目　健康と社会［Health and Society］ 学びのユニバーサル・デザイン入門
担当者名	土永　孝（北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院　准教授）

概要・目的・想定する対象／利用形態
全学教育科目「学びのユニバーサル・デザイン入門」を収録し、OCW から配信する。 履修制限により受講できなかった学生の自習、来年度受講学生の予習・復習等に活用するよう、シラバスに記載し、視聴を促す。またノートテイカー養成用、学内の特別講義（特別修学支援室主催）用の教材として活用する。 聴覚障害学生支援のため、コンテンツの字幕化を図る。

講義情報	
開講部局等	全学教育
シラバスコード	

収録関連情報	
日程	2014 年度後期
場所	高等教育推進機構 E309
講義形式	(講義)・　演習　・　実験
学生発言機会	(有)・　無
肖像権処理希望	有　・(無)
第三者著作物	(有)・　無

E-learning 実施計画	
総コンテンツ数	5　コンテンツ（土永先生ご担当分）
配信対象	(映像コンテンツ) (その他)（　関連資料 PDF　）
履修管理	要　・(不要)
配信開始時期	2015 年 9 月～
公開範囲	履修者限定　・　学内限定　・(一般公開（OCW）) その他（　）
利用条件	CC BY-NC（二次利用可）　・(使用制限資料（閲覧のみ）)・ その他 （　）
再利用条件	(学内利用)・　その他 （　特別講義で再利用　）

担当事項	
講師担当事項	(シラバス情報)・(講義資料)・　受講確認課題 その他（　）
OEC 担当事項	(収録)・(編集)・(著作権処理)・(その他)（字幕化　）

その他
2014 年度は収録のみ、編集等公開作業は 2015 年度に行う。 字幕化については、特別修学支援室でテキスト化（オリジナル映像提供）。字幕版は 2016 年 3 月公開予定。

オープンエデュケーションセンター
収録受付書（講演）

受付日：　2014 年　7 月　24 日

企画名	「オープン教材の作成・活用による実践的原子力バックエンド教育」基礎教育
主催部局等	国際原子力人材育成イニシアティブ事業
担当者名	小崎　完（事業代表者、北海道大学大学院工学研究院　教授）

概要・目的・想定する対象／利用形態
原子力バックエンド分野において、基礎教育、実践的な専門教育、国際教育の３つを行うことで、原子力バックエンド分野の研究開発を国際的にリードする人材を教育・育成を図ることを目的とする事業。 基礎教育では、原子力バックエンド分野に関心を持つ学生が、原子力バックエンド分野がカバーしなければならない多様な専門分野に関する概論講義および基礎実験を受講できるコースとなっている。また、基礎教育の内容をオープン教材として作成、公開することにより、一般市民の原子力および原子力バックエンド分野への理解を深める教材とすることを目指す。 MOOC 型コンテンツ制作におけるベースとするため、OCW コンテンツの制作・配信を行う。

収録関連情報	
日程	11 月 8 日（土）、9 日（日）
場所	北海道大学大学院工学研究院フロンティア応用科学研究棟
参加者発言機会	有　・　(無)
第三者著作物	(有)　・　無

配信関連情報	
総コンテンツ数	9 コンテンツ
配信対象	(映像コンテンツ) その他（　　）
配信開始時期	2015 年 3 月末～
公開範囲	一般公開（OCW）
利用条件	(CC BY-NC（二次利用可）)　・　使用制限資料（閲覧のみ）　・　その他 （　　）
再利用条件	学内利用　・　その他 （　　）

担当事項	
講師担当事項	(講演情報)　・　(講演資料) その他（　　）
OEC 担当事項	(収録)　・　(編集)　・　(著作権処理)　・　その他（　　）

その他

オープンエデュケーションセンター
収録受付書（講演）

受付日：　2014 年　7 月　24 日

企画名	「オープン教材の作成・活用による実践的原子力バックエンド教育」専門教育
主催部局等	国際原子力人材育成イニシアティブ事業
担当者名	小崎　完（事業代表者、北海道大学大学院工学研究院　教授）

概要・目的・想定する対象／利用形態
原子力バックエンド分野において、基礎教育、実践的な専門教育、国際教育の３つを行うことで、原子力バックエンド分野の研究開発を国際的にリードする人材を教育・育成を図ることを目的とする事業。 専門教育では、国内の専門家による１～２単位に相当する体系立てた専門教育・講義と、得られた知識の実践を目的とした実験、フィールド実習の受講および見学会の参加ができる。これらのうち講義、実験、フィールド実習は、基礎教育と同様に可能な限りオープン教材化して後々まで共有できる専門教育システムを構築する。 MOOC 型コンテンツ制作におけるベースとするため、OCW コンテンツの制作・配信を行う。

収録関連情報	
日程	12 月 6 日（土）、7 日（日）
場所	北海道大学工学部
参加者発言機会	有　・　(無)
第三者著作物	(有)　・　無

配信関連情報	
総コンテンツ数	8 コンテンツ
配信対象	(映像コンテンツ) その他（　　）
配信開始時期	2015 年 5 月末～
公開範囲	一般公開（OCW）
利用条件	(CC BY-NC（二次利用可）)　・　使用制限資料（閲覧のみ）　・ その他 （　　）
再利用条件	学内利用　・　その他 （　　）

担当事項	
講師担当事項	(講演情報)　・　(講演資料) その他（　　）
OEC 担当事項	(収録)　・　(編集)　・　(著作権処理)　・　その他（　　）

その他

オープンエデュケーションセンター
収録受付書（講演）

受付日：　2014 年　7 月　24 日

企画名	「オープン教材の作成・活用による実践的原子力バックエンド教育」国際教育
主催部局等	国際原子力人材育成イニシアティブ事業
担当者名	小崎　完（事業代表者、北海道大学大学院工学研究院　教授）

概要・目的・想定する対象／利用形態
原子力バックエンド分野において、基礎教育、実践的な専門教育、国際教育の３つを行うことで、原子力バックエンド分野の研究開発を国際的にリードする人材を教育・育成を図ることを目的とする事業。 専門国際教育では、国際セミナーの開催ならびに海外インターンシップを実施。また、国際セミナーにおける海外の専門家による講演も可能な限りオープン教材化を図り、国際教育に活用する。 MOOC 型コンテンツ制作における参考教材として活用するため、OCW コンテンツの制作・配信を行う。

収録関連情報	
日程	2015 年 2 月 28 日（土）、3 月 1 日（日）
場所	北海道大学学術交流会館
参加者発言機会	有　・　(無)
第三者著作物	(有)　・　無

配信関連情報	
総コンテンツ数	6 コンテンツ
配信対象	(映像コンテンツ) その他（　　）
配信開始時期	2015 年 7 月末～
公開範囲	一般公開（OCW）
利用条件	(CC BY-NC（二次利用可）)　・　使用制限資料（閲覧のみ）　・ その他 （　　）
再利用条件	学内利用　・　その他 （　　）

担当事項	
講師担当事項	(講演情報)・(講演資料) その他（　　）
OEC 担当事項	(収録)・(編集)・(著作権処理)・　その他（　　）

その他

オープンエデュケーションセンター
収録受付書（講演）

受付日：2014　年 8 月 21 日
更新日：2014　年 9 月 10 日

企画名	北海道大学総合博物館 土曜市民セミナー
主催部局等	北海道大学総合博物館
担当者名	林 昌広　（北海道大学総合博物館）
講師名／所属	北村　清彦　（北海道大学大学院文学研究科 教授）
演題	美術の北大展 －北海道大学所蔵作品悉皆調査報告－

概要・目的・想定する対象／講義における再利用形態
１０月４日（土）から北海道大学総合博物館にて開催される企画展示「美術の北大」展のプレセミナー。 文学研究科芸術学講座の活動内容を紹介する他、これまで余り知られることのなかった「北大における美術活動」を明らかにするとともに、今後の美術作品の収集、保存の問題なども考えて行く。 コンテンツの視聴対象は、企画展示に興味を持った一般市民や学生（小・中・高・大）。　文学研究科芸術学講座の学生。　文学部講義「芸術学演習」での活用（補助教材として使用）も有り。

収録関連情報	
日程	平成２６年９月１３日（土）　１３：３０ ～ １５：００
場所	北海道大学 総合博物館　１Ｆ 知の交流コーナー
参加者発言機会	有　・　(無)
第三者著作物	(有)　・　無

配信関連情報	
総コンテンツ数	１　コンテンツ
配信対象	(映像コンテンツ) その他（　　）
配信開始時期	平成２６ 年１０月　４日～
公開範囲	一般公開（OCW）
利用条件	CC BY-NC（二次利用可）　・(使用制限資料（閲覧のみ）)　・ その他 （　　）
再利用条件	(学内利用)・　その他 （　　）

担当事項	
講師担当事項	講演情報　・(講演資料) その他（　　）
OEC 担当事項	(収録)・(編集)・(著作権処理)・　その他（　　）

その他

オープンエデュケーションセンター
収録・配信受付書

申込日：2014 年 10 月 31 日

企画名	2014 年度後期バイオミメティクス・市民セミナー
主催部局	北海道大学総合博物館
ご担当者名	大原昌宏

概要・目的・想定する対象／講義における再利用形態
【概要】生物のデザインを模倣して工学的な新技術の開発を行う学問である「バイオミメティクス」に関する最新の話題を提供すること。 【目的】バイオミメティクスを広く周知すること。バイオミメティクス研究者間の情報交換。 【想定する対象】主に一般市民・学生。バイオミメティクス研究者。 【講義における再利用形態】学部（文学部）「博物館実習事前事後指導」、学部（文学部）「博物館資料保存論」でレポート課題として視聴を義務付ける。

収録関連情報	
日程	2015 年 2 月 7 日
場所	北海道大学総合博物館 1 階 知の交流コーナー
参加者発言機会	(有) ・ 無 （ ）
第三者著作物	(有) ・ 無 （ ）

配信関連情報	
総コンテンツ数	1 コンテンツ
配信対象	(映像コンテンツ) その他（ ）
配信開始時期	2015 年 10 月～
公開範囲	一般公開（OCW）
利用条件	CC BY-NC（二次利用可） ・ (使用制限資料（閲覧のみ)) ・ その他 （ ）
再利用条件	(学内利用) ・ その他 （ ）

担当事項	
講師ご担当事項	講演情報 ・ (講演資料) その他（ ）
OEC 担当事項	(収録) ・ (編集) ・ (著作権処理) ・ その他（ ）

その他

オープンエデュケーションセンター
収録受付書（講演）

受付日：2014 年 11 月 5 日

企画名	サステイナブルキャンパス国際シンポジム 2014
主催部局等	サステイナブルキャンパス推進本部
担当者名	森本様、松原様

概要・目的・想定する対象／利用形態
北海道大学サステナビリティ・ウィーク代表的企画のひとつである「サステイナブルキャンパス国際シンポジウム 2014」を収録し、OCW から配信する。

収録関連情報	
日程	11 月 25 日（火）
場所	北海道大学　学術交流会館　講堂
参加者発言機会	（有）・　無
第三者著作物	（有）・　無

配信関連情報	
総コンテンツ数	3　コンテンツ
配信対象	（映像コンテンツ） その他（　　）
配信開始時期	2015 年 4 月以降なるべく早く
公開範囲	一般公開（OCW）
利用条件	CC BY-NC（二次利用可）　・（使用制限資料（閲覧のみ））・ その他 （　　）
再利用条件	学内利用　・　その他 （　　）

担当事項	
講師担当事項	講演情報　・（講演資料） その他（　　）
OEC 担当事項	（収録）・（編集）・（著作権処理）・　その他（　　）

その他
2015 年 2 月より著作権処理・編集開始、公開は 2015 年度になることを承諾済み

オープンエデュケーションセンター
収録受付書（講演）

受付日： 2015 年 3 月 4 日

企画名	河村公隆教授 最終講義 有機酸の地球化学とその七変化：100 年後の大気環境と人類社会の展望」
主催部局等	低温科学研究所
担当者名	宮崎 雄三（低温科学研究所・助教）

概要・目的・想定する対象／利用形態
低温科学研究所・河村公隆教授の最終講義「有機酸の地球化学とその七変化：100 年後の大気環境と人類社会の展望」を通して、大気環境・気候変動における大気化学研究（特に大気微量成分の地球化学研究）の現状認識と知識獲得、その重要性の幅広い認知・理解を目的とする。 想定する対象は、本学大学院生・学部学生のみならず、関連研究者（教職員、研究員等）を含む。 講義における再利用形態として、大学院（環境科学院）専門科目「対流圏化学特論」の補助教材/参考資料として利用する。

収録関連情報	
日程	2015 年 3 月 12 日 15:00-16:30
場所	低温科学研究所 新棟３階 講堂（N302）
参加者発言機会	（有）・ 無 （コンテンツ化は講義部分のみ）
第三者著作物	有 ・（無）（基本的に全て自作）

配信関連情報	
総コンテンツ数	1 コンテンツ
配信対象	~~映像コンテンツ~~ その他（ ）
配信開始時期	2015 年 9 月 1 日～
公開範囲	一般公開（OCW）
利用条件	CC BY-NC（二次利用可） ・（~~使用制限資料（閲覧のみ）~~） ・ その他 （ ）
再利用条件	（学内利用）・ その他 （ ）

担当事項	
講師担当事項	（講演情報）・（講演資料） その他（ ）
OEC 担当事項	（収録）・（編集）・（著作権処理）・ その他（ ）

その他

Ⅳ. 広報資料



2015 年 4 月　新入学生対象パンフレット

サイズ：A4 縦（両面カラー）
紙：ヴァンヌーボ V ホワイト 150kg
印刷業者：株式会社グラフィック
発注枚数：3,500 枚

あつまれメディカルLabサイエンス大好き人間!!　フィールド体験型プログラム　人間と環境科学　聞く力・話す力のトレーニング　蛙学への招待　環境と人間　大学博物館講座-北大自然史研究の系譜　北大総合博物館で学ぼう,ヒグマ学入門　「環境マネジメントシステム」という考え方　健康と社会　健康長寿と口腔科学　人間と文化　ムーミンの国へようこそ!　プログラミング入門Ruby　で誰でもプログラミング　平和の学際的研究　特別講義　大学と社会　キャリアデザインI　学問の世界　思索と言語。ことばを科学する:人間の再発見　論理学A　芸術と文学　北大生のための音楽講座　パイプオルガンとその音楽　札響と音楽文化　ロシア音楽の魅力　ピアノ音楽の楽しみ・魅力　漢文講読-『列女伝』を読む-　社会の認識　環境と地域社会　戦争と平和　科学・技術の世界　野生動物保全と人間社会　ゼロからはじめる「科学力」養成講座　基礎心理学入門　心の発達と自己分析-ありのままの自分を見つめて　数論の歴史　トポロジーの考え方　外国語科目　英語I　英語II　初級:All English Training for Travel and Documentaries　外国語演習　初級:All-English Training for Giving a Campus Tour　上級:War History and Memory in Japan　情報倫理小冊子(情報学I)　基礎科目　グローバル化社会の基礎構造　愛ではじまる微積分　基礎物理学　熱力学　心理学実験

ことばを科学する人
楽の魅力ムーミンの
寿と口腔科学ゼロか
成講座トポロジーの
研究心の発達と自己
分を見つめて札響と
野生動物保全と人間
キャリアデザイン

ネットで学ぶ、をはじめよう。

オープンエデュケーションセンターでは、みなさんに教育の「いま」を伝えるため、様々な活動を行っています。そのひとつ、オープンコースウェア（OCW）では、北大の講義映像をインターネット上で公開し教育をオープンにしています。幅広い分野の講義を視聴できますので、履修科目の選択や、自身の専門分野を決める際に活用できます。ぜひ、ホームページにアクセスしてみてください。

http://www.open-ed.hokudai.ac.jp

北海道大学
オープンエデュケーション
センター
CENTER FOR OPEN EDUCATION
HOKKAIDO UNIVERSITY

〒060-0817　札幌市北区北17条西８丁目
北海道大学　高等教育推進機構1階　N101
TEL 011-706-808 / FAX 011-706-8082
Email　contact@open-ed.hokudai.ac.jp

http://www.open-ed.hokudai.ac.jp





2015 年 4 月　学内教員対象パンフレット

サイズ：A5 横・観音折（両面カラー）
紙：上質再生紙 R100　110kg
印刷業者：柏陽印刷株式会社
発注枚数：5,000 枚

北海道大学 オープン エデュケーション センター

CENTER FOR OPEN EDUCATION
HOKKAIDO UNIVERSITY

あなたが創る 学びがある

オープンエデュケーションと 未来の学び

文・重田勝介 准教授

ope

世界中でひろがる「オープンエデュケーション」

世界中で、インターネット上で広く教育機会を提供する活動「オープンエデュケーション」が活発になっています。大学をはじめとする様々な教育機関や個人が、ネット上で自由に使えるオープン教材（OER）を公開し、多くの大学がオープンコースウェア（OCW）とよばれる大学教育に使われる教材を無料で公開しています。また、教育ベンチャー企業や大学が数万人規模の学習者を集めるムーク（MOOC）というオンライン教育も急速に広がっており、その受講者は全世界で１千万人を超えています。

づくりを 強くサポート！

センターのミッション

教材のデジタル化、ビデオ制作、著作権処理など、オープンエデュケーションセンターの専門スタッフが、オープン教材の制作をお手伝いします。

小林幸徳 教授



北海道大学 高等教育推進機構
オープンエデュケーションセンター
センター長

映像を活用した教材になったときの「！」をぜひ体験していただきたいと思います。

● 教材制作のきっかけ

自身の講義で「グループごとの実験と講義のスケジュールがあわない」という問題がありました。学生が予習や復習に役立てられる「実験のビデオ教材」をつくれば、スケジュールの不一致を解消できるだけでなく、実験の理解度がより深まるのではないかと期待しました。

● 制作を終えて

テロップや静止画が効果的に挿入され、実際の実験以上に内容が分かりやすくなりました。著作権・教材設計・デザインの専門スタッフのアドバイスによる教材改善も期待できます。この経験を生かし、将来は学内外で活用できるオープン教材の制作にも取り組みたいです。

デジタル教材をつくる

あなたが創る学びのかたち - 制作レポート #01
「センター長、デジタル教材をつくる」編

01 打ち合わせ



グループごとに実施する実験と講義のスケジュールの不一致を解消したい

- 予習と復習の両方に活用できる補助教材の制作を希望
- パワーポイントを用いた理論説明教材を実験映像に合成した編集を希望

02 板書収録



パワーポイントを用いた教材をタブレット端末で制作。書き込みながら説明を録音

- 板書のようなイメージも出て、活きた教材となり好印象
- 著作権処理も、専門のスタッフに相談することで事前に解決できる

03 実験収録



テスト収録と本番の２回に分けて実施。原稿はつくらず、普段の要領で実験収録

- 撮影スタッフの、照明やカメラの設置の手際よさに感心
- 板書収録と実験テスト収録を合成した試作動画をみて、本番収録と編集方針について打ち合わせ

04 映像完成



完成した映像教材にビックリ！テロップなどの演出が効果的で分りやすい

- ほかの先生にもすすんで紹介したくなるほどの出来栄えに感激
- スタジオ教室での収録などを組み合わせると、より完成度の高い教材の制作が可能

北海道大学
オープン
エデュケーション
センター

CENTER FOR OPEN EDUCATION
HOKKAIDO UNIVERSITY

2014 年度　活動報告書

平成 27年 3月発行

発行者　北海道大学オープンエデュケーションセンター

〒060-0817　札幌市北区北17条西8丁目
北海道大学 高等教育推進機構 1 階 N101

TEL　011-706-8080
FAX　011-706-8082
Email　contact@open-ed.hokudai.ac.jp
URL　http://www.open-ed.hokudai.ac.jp

印刷者　柏楊印刷株式会社